# 令和5年度外部評価結果 <sup>令和4年度事務事業</sup>

伊予市行政評価委員会

# 伊予市行政評価委員会

委員長 克 敏 学識経験者 松山大学教授 妹 尾 副委員長 市長が必要と認めた者 税理士 西 田 和 眞 澤生 学識経験者 松山大学教授 倉 雄 公募による者 双海町大久保 戸 雅 博 田 楠 本 亜由美 IJ 上三谷 市長が必要と認めた者 公認会計士 邊 彰 三 Щ

事務局 企画振興部企画政策課

本委員会は、今年度新たな委員構成の下、市が令和4年度に実施した568の事務事業のうち、第2次伊予市総合計画の各施策から選定した重要事業の中から委員の視点で選択した事業を始め、二次判定者が外部評価に付すと判断した事業、担当者が低評価と判断した事業など、計19の事務事業について調査・審議に取り組んだ。評価の手法としては、これまでと同様に、担当課からの説明の後、委員一人一人から質疑あるいは意見を出し、スーパーバイザーとして同席されている所管部長から、各々の事務事業を総括する形で実施した。

本年度も全ての回で市議会議員の傍聴があったが、傍聴される方は固定化されつつある。議会とは異なる緊張感の中で、部長以下、担当職員が委員と真剣 勝負を繰り広げている。傍聴されたことのない方は、ぜひ傍聴してもらいたい。

さて、本年度の外部評価は、委員構成が変わったこともあり、これまでとは違う観点に重きをおいて審議が進んだ。事業の目的や内容と設定された成果指標・活動指標の間に論理的な因果関係があるかどうかという視点である。残念ながら、委員会に提出された事務事業評価シートや担当課からの説明は、十分なものとは言えず、多くの指摘を受けることとなった。

ただ、事務事業評価の改善に向けて、昨年度から導入しているロジックモデルの考え方がしっかりと職員に浸透すれば、設定された指標に対する意図を読み取りやすくなり、これまで以上に市民にとって分かりやすいものになるだろう。より良い事務事業評価ができるよう、一層の研鑽を期待したい。

また、これまでも本委員会の中で繰り返し指摘してきたが、事業の名称から 受けるイメージと実施している内容に大きなずれが生じている事業や、そもそ も何をしているかイメージも湧かない名称が付けられている事業が散見される。 事業名称は予算計上に関係していることは十分に理解できるが、行政目線では なく、市民目線で分かりやすいものに変更するよう強く要望する。

伊予市の行政評価も17年目を迎え、相応の期間が経過した。当初はそれなりに目的と熱意をもって実施していたのだろうが、次第に評価自体がマンネリ化・形骸化してしまい、職員のやらされ感や負担感が事務事業評価シートをとおして、見る側に伝わってしまうような状態になっている。

今が絶好機と捉え、改善に向けた取組を積極的に推し進めてもらいたい。行 政評価の役割も当初から変化し、今の行財政状況が求めるものにフィットする よう変革する必要がある。事務事業の重要性や予算の大小などにより、評価の 濃淡やサイクルを変えるなど、職員一人一人が担当する事務事業に真摯に向き 合い評価できる仕組みを構築してもらいたい。

最後に、少子超高齢化・人口減少社会とされる現代社会においては、複雑多岐にわたる社会課題が次々と生まれている。それらの多くは行政だけでは解決できないものであり、解決するには市民の参画と協働が必須である。市民に分かりやすく、丁寧な発信を続けていれば、興味をもった市民が市政に参加するという好循環が生まれるだろう。行政評価が市民とがっちりスクラムを組むきっかけになるよう、引き続き努力を続けてもらいたい。

# 令和5年度外部評価結果(令和4年度事務事業) 目 次

事業番号	事業名	担当部局	掲載頁
100		 総務課	P 1
233	移住・定住推進事業	地域創生課	P 2
250	女性政策事業	総務課	P 3
460	防災行政無線等管理事業	危機管理課	P 4
491	地域ブランド力強化事業	地域創生課	P 5
560	防犯対策事業	危機管理課	P 6
575-2	行政改革実施計画進捗管理事務	企画政策課	P 7
651	マイナンバー事務	市民課	P 8
1770	母子父子自立支援事業	子育て支援課	P 9
2110	新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業	健康増進課	P10
2452	農業活性化緊急対策事業	農業振興課	P11
2540	中山間地域等直接支払交付金事業	農業振興課	P12
2970	林道管理事業	農林水産課	P13
4107	エコフロー事業	学校教育課	P14
4185	修学旅行キャンセル料支援事業	学校教育課	P15
4290	小学校パソコン教室運営事業	学校教育課	P16
4450	中学校パソコン教室運営事業	学校教育課	P17
5212	学校給食センター運営事業	学校教育課	P18
6260	婚活事業	子育て支援課	P19

### No.1

No.1											
事	務	事	業	名	広報区長会事業			担当	部局	総系	<b></b> 等課
613	. ^		=1		参画協働推進都市	5の創造		•			
総	£ £	1	計	画	効率的で透明性の	)高い行財政運営	4				
事	業	の	対	象	伊予市広報区長、	伊予市広報委員	1				
事	業	Ø	目	的	広報関連業務(市 る民意のちょうき						万政に対す
事	業	Ø	内	容	伊予市広報区長5 に、市からの広幸 る。また、市から	B広聴業務につい	いて、市内一円で	統一した見角			
				事第	美費及び財源内訳(	千円)		事美	業活動の	実績(活動指	標)
	項		目		R3決算	R4予算	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績
直	接	事	業	費	19, 520	19, 898	19, 587	広報区長・			
	国	庫 :	支 出	金	0	0	0	広報委員報	千円	19, 225	19, 239
財	県	支	出	金	0	0	0	酬			
源中	地		 方	債	0	0	0				
内訳	そ	(	D	他	0	0	0	広報区長研	千円	0	15
ш/ С		般	財	源	19, 520	19, 898	19, 587	修			
職	員のノ				0. 35	0. 35	0. 35				
	、工当 <i>f</i> :				7, 841	7, 794					
	直接				22, 264	22, 315					
	な				直接実施。予算額(広報)						
					広報区長謝金(予算額1,235万	)広報委員謝金					
成		ŧ	指	標	広報区長協議会定	三例会に各地区か	いら持ち寄られる	持ち寄り議員	<b></b> <b></b>	-	
指	ໄ標 設	定 0	) 考え	. 方	民意のちょう達及 会から行政に対し			から、各地区	区広報区長		
区	· 5.	}	年	度	R3年度		R4年度	R5年	度	毎年	F度
目				標	20		20	20		20	)
実				績	3		0				
自		3	判	定	妥 当 性	A	有 効 性	A	3	効率性	A
	業 成 男夫した点	見 だ	りでき	きるよう	ける共通課題の解決 う、広報区長協議会 い、できるだける	会定例会におい	て、広報区長間で	での意見交換	を行った	。あらかじ	カテーマを
	の苦労 点、課題	<b>1</b> 2	めて行	ひ員会 る	会定例会の「持ち <sup>2</sup> を中心に検討する。	必要がある。		ぶなかったこ			見直し等を
_	· ½	<b>7</b>	判	定	妥 当 性	A	有 効 性	A	3	防 率 性	A
				<b>売と判断</b> 併せた	<b>fする</b> 見直し、広報委員	の報酬額につい	ては、広報紙の	全戸ポスティ	ングとと	ともに検討す	る必要があ
=	. <i>'</i>	7	判	定	以下の点について	行政評価委員会	:に諮る				
				選定事	業】 て業務量の軽減に	関する要望があ	る。業務の見直	しについて、	庁内アン	ノケートを実	施する。
外			評画から	価	マミム が 声楽 の ロ	的・内容を基出	ナスためのエロ	しょで流却っ	*なマム!	シ ネ - 4、4g11MeE	キねい
	ナキム		示ルすり、	、 //△ ¥校	区長会が事業の目		ッるにめの于段	こして週別(			
			-		未昌の規劃が割今		庁却及び八昧ぶ	じわだけ エヌ	シアケチャン		
<ul><li>活動</li></ul>	動指標	に広	服区長	・広報	委員の報酬が設定 考えても 日標値	されているが、					
<ul><li>活動</li><li>・成り</li></ul>	動指標 果指標	に広報:	服区長 よの実	・広報 績から	考えても、目標値	されているが、 と実情が合って	いないのは明ら	かである。適	通切な指標	票を検討すべ	きである。
・活動 ・成! ・担!	動指標 果指標 ハ手不	に広 は過 足の 足の	服区長 長の実 京因と	・広報 績から して、	考えても、目標値 制度自体が今の時	されているが、 と実情が合って 代にあっていな	いないのは明ら; いということが	かである。 考えられる。	動な指標 行政にと	票を検討すべ	きである。
・活動 ・成り ・担い 担い	動指標 果指標 ハ手不 ハ手に	に広 <sup>‡</sup> は過: 足の! とっ	服区長 法の実 原因と ては苦	・広報 績から して、 痛とな	考えても、目標値 制度自体が今の時 っている現状も認	されているが、 と実情が合って 代にあっていな 識し、より良い	いないのは明ら いということが 仕組みを検討し	かである。適 考えられる。 てもらいたい	動切な指標 行政にも	票を検討すべ とっては便利	きである。 な制度だが
・活動 ・成り ・担い ・行動	動指標といいない。	に広ば 足の に と 部 を す	服区長 芸の実 原因と ては苦 担って	・ないないないない。	考えても、目標値 制度自体が今の時 っている現状も認 いう感覚から、あ	されているが、 と実情が合って 代にあっていな 識し、より良い らぬ誤解が生ま	いないのは明ら いということが 仕組みを検討し れても仕方ない。	かである。適 考えられる。 てもらいたい ,時代に逆行	類な指標 行政にと い。 「している	票を検討すべ とっては便利 る制度だと思	きである。 な制度だが う。
・活動 ・成り ・担い 担い ・行動	動指標果ハチの皮制	に広ば 足の に と 部 を す	服区長 芸の実 原因と ては苦 担って	・ないないないない。	考えても、目標値 制度自体が今の時 っている現状も認	されているが、 と実情が合って 代にあっていな 識し、より良い らぬ誤解が生ま	いないのは明ら いということが 仕組みを検討し れても仕方ない。	かである。適 考えられる。 てもらいたい ,時代に逆行	類な指標 行政にと い。 「している	票を検討すべ とっては便利 る制度だと思	きである。 な制度だが う。
・活動・ ・規 ・担 ・行動・ ・本情	動指標果ハチの皮制	には足と部なり	服区長 まの実 では苦さいけ にはないけ 総 に制度に	・績し痛いな おいなとも おいな おいな おいな おいな おいな おいな おいな おいな おいな おいな	考えても、目標値 制度自体が今の時 っている現状も認 いう感覚から、あ	されているが、と実情が合って、代にあっていな、はし、より良いらぬ誤解が生まりも機動力を発てきたものであった。	いないのは明らいということが。 仕組みを検討しれても仕方ない。 揮できるよう、。 るが、担い手不見	かである。 適 考えられる。 てもらいたい 、時代に逆行 組織的なリニ との課題等も	がな指標である。 行政にという。 でしている でユーア/ あり、見	票を検討すべ とっては便利 る制度だと思 いが必要では	きである。 な制度だが う。 ないか。
・活成 ・担 ・ ・本 ・本 ・ ・本 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	動指標不いります。	には足と部な等本で	服区長実に 原因と苦でした。 総はおいけた。 総はないけた。 総はないは、 総はないが、 に	・績し痛いな 括昭感 あなとも まと 断	考えても、目標値制度自体が今の時のでいる現状も認いう感覚から、あのではない。今よ	されているが、と実情が合って、代にあっていな、はし、より良いらぬ誤解が生まりも機動力を発てきたものであった。	いないのは明らいということが、 仕組みを検討しれても仕方ない。 揮できるよう、;	かである。 適 考えられる。 てもらいたい 、時代に逆行 組織的なリニ との課題等も	がな指標である。 行政にという。 でしている でユーア/ あり、見	票を検討すべ とっては便利 る制度だと思 いが必要では	きである。 な制度だが う。 ないか。
・活成 ・担担 ・・本部 コン 最業	動指標不いります。	には足と部な <b>等</b> 本で <b>性</b> 「 <sup>広</sup>	服区長実に見せい 総度を実 に関いる。 に関いる。 に関いる。 に関いる。 に関いる。 に関いる。 に関いる。 に対しては、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが、 にが	・績し痛いな 括 昭感 断をへなとも	考えても、目標値制度自体が今の時ではない。今より時代から運用した。今の時代にある。	されているが、と実情が合って代にあっていな、識し、より良いらぬ誤解が生まりも機動力を発てきたものであった、より良い何	いないのは明らことがいたいということがは 仕組みを検討しれても仕方ない。 揮できるよう、。 るが、担い手不見 仕組みを今後検言	かである。 適 考えられる。 てもらいたい 時代に逆行 組織的なリニ 品の課題等もい 対を進めたい	が切な指標できる。 行いでいる。 行いでいる。 あり、見	票を検討すべ とっては便利 5制度だと思 いが必要では 直しが必要?	きである。 な制度だが う。 ないか。 な時期にき

事	1	赘	事	業	名	移住・定住推進事	事業		担当	当部局	地域創	削生課
糸	×	合		計	<b>त्का</b>	参画協働推進都市	†の創造					
ηv	ъ			āΤ	画	市民が主役のまな	ちづくり					
耳	ī :	業	の	対	象	市民・市外から利	多住を考える人					
•						1,24 1,21,1 21,	<u> </u>	•				
事	<u> </u>	業	Ø	目	的	本市の魅力の発作 地域資源を活用し	した移住施策の	推進と交流・気	定住人口の増加	を目的と	する。	
導	<b>=</b>	業	Ø	内	容	移住・定住推進でを行うとともに、 また、移住希望る トップ窓口による う。	大都市圏で開 者に迅速かつ通	催される移住に   切に対応する/	フェアへ出展し こめ、移住定住	、積極的 支援業務	な情報発信! を民間委託!	こ努める。 レ、ワンス
					車当	美費及び財源内訳	(千円)		事	業活動の	実績(活動指	煙)
	項			目		R3決算	<u> </u>	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績
==		++	<b>.</b>				**** 7 71			丰田	RO大根	八十大根
正		接	事	業	費	6, 284	9, 104		— 移住フェア	_		
		国原	<b>車</b> 3	と出	金	0	C		0 開催回数	口	7	9
財	ļ	杲	支	出	金	700	1,600	80	00			
源	t	也	j	5	債	0	C		0			
内訳	-	<del>ح</del>	0	)	他	0	(		移住相談件	件	290	287
пX		<u> </u>		<u>*</u> 財		5, 584	7, 504		数 数			20.
Tr.	4 2 4	D 1								+		
	-			こんく		0. 50	0. 50					
				人件費		7, 841	7, 794		8住者数	人	70	78
×	直	接事	業費	·人+5	件費	10, 205	13, 001	11, 20	04	<u></u>		
É	こな	: 実	施	主	体	直接実施一部委請	<b>光</b>	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
					定管理 載 欄)	移住定住支援業務。 改修支援事業費補助 進協議会負担金(1)	助金(1,600千円			件	1	1
Б	ţ	果		指	標	市内への移住者数	数					
抖	<b>貞標</b>		定の	考 <i>え</i>	. 方	移住を促進する『	事業であるため	)、移住者数を原	成果指標とする 	ことが適	当である。	
₽	<u> </u>	分		年	度	R3年度		R4年度	R5年	度	毎年	丰度
E	3				標	30		30	30		30	)
ᢖ	₹				績	70		78				
É	1	己		判	定	妥 当 性	A	有 効	性 A		効 率 性	A
	業 成 夫し#		ポと	ート <sup>・</sup> して、	センター 前年』	イルス感染症に関 - 「いよりん」や きと同程度の相談 切めて市単独開催	地域移住支援 件数を維持する	団体のネットワ るとともに、移	ークにより、昇 住者数は目標値	に軟に対応 直を超える	ぶすることが ることができ	でき、結果
	を 点、診					ぶ移住するまでの た施策の展開や						プロモー
_	-	次		判	定	妥 当 性	A	有 効	性 S		効 率 性	A
車業	ກ‡		_		<u>、</u> 売と判め			13 133			, , ,	
移住が不	相談 足し	件数	 て、 毛	8住者	数も増	加しており、今ま された「NPO空き》						
_ =		次		判	定	以下の点について	行政評価委員	会に諮る				
【行	政評	価委	員会	委員	選定事	業】						
Я	<b>\</b>	部		評	価							
<ul><li>事</li><li>成</li></ul>	業目 果指	的に標・	ある 活動	)「受 助指標	入体制ともに	」 の確立」に関する 定住に関する指標 屋しているのだろ	ばない。この	視点は落とすべ	きではないた	め、検討	が必要である	0
	-								-			-
						住者にとって使い						-
						るために必死であ						
• 移	住施	策て	:最も	重要	なのは	「住」への対応で	あり、次は「	職」である。こ	の2点は積極的	的に検討:	を進めるとよ	い。
·海	<ul><li>山</li></ul>	・ま	50	PRが	、かえ	って地域の分断を	生んでいる。	三つの受入れ住	民団体の活動	を融合さ	せる仕掛けが	必要。
咅	ß -	Ę	等	総	括							
	「住」への施策について、市内のNPO法人等と連携し、サポートできる体制を構築している。三つの受入れ住民団体や地域の人たちとも連携し、行政も加わりながら取組を進めたい。											
重	⊒ ▽	終		判	断				-			
			_			! 『の上、更に重点化						
尹未	· • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	[편]	Ť					<b>44.</b> 000 000 000	N	a _ 1-t- · · ·		) > pp (-: '
	メント	欄	署	とのi		言の仕組みを構築 図ること。また、 ご。						

#### No.3

事務事業名       女性政策事業         参画協働推進都市の創造男女共同参画社会の実現         事業の対象       市民、伊予市女性リーダー育成委員会         事業の目的       男女共同参画社会づくりの意識高揚を図るの形成を目指す。	とともに、	女性人材	印间	総番	<b>穷</b> 谜							
# 合 計 画 男女共同参画社会の実現  事 業 の 対 象 市民、伊予市女性リーダー育成委員会  男女共同参画社会づくりの意識高揚を図る。	とともに、	女性人材										
事 業 の 対 象 市民、伊予市女性リーダー育成委員会 男女共同参画社会づくりの意識高揚を図る。	とともに、	女性人材										
東 業 の 日 始 男女共同参画社会づくりの意識高揚を図る。	とともに、	女性人材										
	とともに、	女性人材										
HERM VIVING PIN / 0	甲予市女性リーダー育成委員会として日本女性会議への参加経費に対して補助金を交付する とともに、市内女性団体同士の連携の核となる活動を行っていく。											
				して補助金を	交付する							
事業費及び財源内訳(千円)		事業	活動の	実績(活動指	標)							
項 目 R3決算 R4予算 R4決算	算	項目	単位	R3実績	R4実績							
直接事業費 206 275	143	L. 1. 101. A										
国庫支出金 0 0		本女性会 参加者数	人	0	4							
財 県 支 出 金 0 0	0	/加日 妖										
源 内 地 方 債 0 0	0	/ 11.55										
Real Real Real Real Real Real Real Real		女共同参 研修会	口	1								
<b>一般財源</b> 206 275	143	1104										
職員の人工(にんく)数 0.03 0.03 (	0.03											
1人工当たりの人件費単価 7,841 7,794 7,	, 794											
※ 直接事業費+人件費 441 509	441 509 377											
主 な 実 施 主 体 市民、男女共同参画基本計画策定審議会委員、伊子市女性リーダー育成委員会委員												
実施形態(補助金・指定管理 料・委託料等の記載欄) 伊予市女性リーダー育成委員会補助金												
成果指標市の委員会・審議会への女性の登用率												
指標設定の考え方 市の政策・方針決定過程への女性の参画は、 と調和ある発展に欠かせないものである。	、男女がと											
区 分 年 度 R3年度 R4年度		R5年B	Ę	毎年								
目 標 35 35		35		35	5							
実 績 25 25				. <del></del>								
<u>自己判定</u> 妥当性 S 有刻	力性	A	3	め 率 性	A							
事業成果 今年度は、日本女性会議へ派遣事業を実施することができ エ夫した点 また、カジダン研修を実施し、女性活躍推進のための意識			育成に貢	献できた。								
事業の苦労し た点、課題 女性が社会で活躍の場を広げるためには、男性の家事育児への意識改革と参加が重要である。今後も啓発研 修を実施していきたい。												
	<b>力性</b>	A	3	効 率 性	A							
一次判定 妥当性 S 有効性 A 効率性 A 事業の方向性 事業継続と判断する 本制度の浸透には、企業・団体等を巻き込んだ推進が必要と考えている。 職場内の女性登用については、本人が望まない場合もあり、男性への理解促進などの環境整備とともに、女性職員に対してキャリア形成に関する研修等総合的に取組む必要がある。												

#### 二 次 判 定 以下の点について行政評価委員会に諮る

【行政評価委員会委員選定事業】

### 外 部 評 価

- ・本事業の位置づけが不明瞭である。後期実施計画に沿った形で、改めて本事業を位置づけ直してはどうか。
- ・男女共同参画という言葉が多数記載されているのに、事業名は「女性政策事業」であり、違和感がある。男性の意識改革 等にも関わる取組もあるため、事業名は変更した方がよいだろう。
- ・これまでも同じことを繰り返してきただけの印象。マンネリを打破するために、事業を根本的に見直す必要がある。
- ・現代社会において、男女共同参画は重要な課題であるが、本事業にかける人工数に市の姿勢が現れているように思う。
- ・成果指標の目標値が適切なのか。生物学上では2分の1である。あえて設定するなら、50%とすべきである。
- ・社会の構造や意識を変えるために、行政が率先して男女共同参画について行動し続けることが重要である。

# 部 長 等 総 括

**コメント欄** 女性の社会参画を進めるためには、男性の意識や言動、行動を変えていくことが重要である。そうすることで、女性が行動に移しやすい環境が整っていくのだろう。今後も企業を巻き込んだ取組を進めたい。

#### 最終判断

#### 事業の方向性 下記の点を考慮の上、更に重点化

**コメント欄** 令和5年度から愛媛県が新たにスタートさせる「ひめボス宣言事業所」認証制度について、市内の事業所に参加を呼び掛けていくこと。

#### No.4

事	務	事	業	名	防災行政無線等管	<b>管理事業</b>			1	担当	部局	危機管	<b>達理課</b>
総	<b>ì</b> 1	合	計	画	快適空間都市の創安全・安心に暮ら		いまちづく	ŋ					
事	業	σ.	) 対	象	全市民								
事	<b>菲</b> 業	σ	)目	的	災害発生時等の 運用管理体制を 確用管理体制を		-、デジタル[	坊災行	F政無線等	辛の†	青報伝達	施設の確実で	で安定した
事	業	σ.	)内	容	防災行政無線設係 情報や平常時の行			よし	安全・安	心メ	ール)を	運用し、災害	<b>手時の緊急</b>
				事第	美費及び財源内訳(	(千円)				事訓	業活動の	実績(活動指	標)
	項		E	1	R3決算	R4予算	R4決算	草	項目		単位	R3実績	R4実績
直	接	事	業	費	43, 257	44, 936	34,	961	防災無線	いる			
	国	庫	支 出	金	0	0		0	よる放送		口	75	9
財	県	支	出	金	0								
源内	地		方	債	13, 300								
訳	そ		の	他	100							19	1
	_	般	財	源	29, 857	29, 336	25,	761	メール酯 回数	710			
ಾ	員の.	人工	(にんく	)数	0. 20 0. 20				防災行政	у <del>ш.</del>			
1人	エ当	たりの	の人件費	単価	7, 841	7, 794	7,	794	線維持管		千円	21, 774	17, 48
*	直接	事業	費+人	件費	44, 825	46, 495	36,	520	経費				
主	な	実	施主	体	直接実施、委託		•		防犯・防				
実施料・	形態( 委 託	補助料等	か金・指 の 記	定管理載 欄)	委託料				情報配信 ステム維 経費		千円	713	75
成	ţ ;	果	指	標	設定しない				•				
指	信標 設	定	の 考 え	t 方	社会情勢や財政 る。	犬況等を考慮し	た対応とする	るため	)、設定し	ない	いことを	総合計画で定	<b> </b>
区	5	分	年	度	R3年度		R4年度		R!	5年	度	毎年	F度
目				標	-		-			-		Ī	-
実	Ę			績	-		-			-		ı	-
自	l i		判	定	妥 当 性	妥当性 A 有効						効 率 性	A
	業 成 : 夫した。				記布については、 ができた。	当初の目的( <u>-</u>	上砂災害特別	警戒区	区域及び降	坊災	行政無線	マ 難聴区域への	の配布)は
	の苦労 点、課題		今後、[	防災無総	泉のシステム自体	の更新について	て具体的に進	める』	必要がある 	5.			
_	- ;	欠	判	定	妥 当 性	S	有 炃	性	A		3	効 率 性	A
事業	の方向	1性	事業継続	続と判め	 fする	<u> </u>						<u> </u>	

## 事業の方向性事業継続と判断する

平成21年度の運用開始から14年が経過し、設備不具合の発生頻度が増加傾向にある。一般的に機器の耐用年数とされる15~ 20年が近づいていることから、引き続き次期システムの導入に向けた調査・研究を進める必要がある。

#### 二 次 判 定 以下の点について行政評価委員会に諮る

【行政評価委員会委員選定事業】

#### 部 評 価

- ・成果指標として、災害発生時に緊急情報を届ることができる範囲を設定してはどうだろうか。
- ・より多くの市民に安全・安心メールを登録してもらえるように、啓発活動を更に進めるとよい。
- ・本事業の最重要命題は、情報が確実に市民に届くこと。デジタル技術の活用も視野に各種検討を進めてもらいたい。
- ・災害時に情報を得る手段は複数あるが、あまり知られていない。市民に確実に伝わるよう、PRに努めてもらいたい。
- ・市民の安全・安心のため、サービスを止めることはできない。リニューアルの際には、運用に職員の手間がかからない ように、予算も更に縮減できるように、しっかりと検討をしてもらいたい。

### 部 長 等 総 括

デジタル技術は日進月歩であり、この分野においても新たなシステムが日々開発されている。情報伝達の確 実性を第一に、効率的な伝達手法や費用、手間等についても引き続き検討を進めたい。 コメント欄

#### 最 終 断

事業の方向性 下記の点を考慮の上、更に重点化

効果的な伝達手法や費用、また先進各システムのメリット・デメリットを精査すること。 コメント欄

#### No.5

140.5																
事	務	事	業	名	地域ブランド力	強化事業				担当	部局	地域創	川生課			
総	合		計	画	産業振興都市の食と食文化を生		ちづくし	)								
事	業	Ø	対	象	市産品(原則と 工業製品をいう。 個人、法人又は 住所又は主たる	して伊予 。)を製 これらを	市内で生造する『営む者』	生産あるいた 事業者 ( 農 で組織される	林業、 5法人ネ	水産業、食	品加工業	<b>業若しくは製</b>	造業を営む			
事	業	Ø	目	的	数ある伊予市の 売イベント等を いく。											
事	業	Ø	内	容	ブランド認定を 売イベント等を	年間を通			E品の:							
					<b>業費及び財源内訳</b>							実績(活動指				
	項		目		R3決算	R4予		R4決算		項目	単位	R3実績	R4実績			
直	接	事	業	費	450		5, 904	4,	846	ブランド認						
l	玉	庫	支 出	金	0		0			と審査会	口	2	4			
財源	県	支	出	金	0		1,995	1,	995							
源一内上	地		方	債	0		0		0	-V = \ . 10=π						
訳	そ	(	の	他	0		0			ブランド認 定品	商品	1				
	_	般	財	源	450		3, 909	2,	851	C HH						
職	員の人	,工(	にんく	)数	0.40		0.40	0	. 40	ブランド認						
1人.	工当た	りの	人件費	単価	7, 841						口	6	1.			
*	直接引	業	費+人·	件費	3, 586		9,022	7,	964	ベント						
主	なる	実 方	拖 主	体	直接実施	接実施										
実施刑料・委	彡態(补 ← 託 料	輔助:	金・指:	定管理載 欄)	ますます、いよ 金(500千円)	し。ブラ	ンド」記	忍定品支援補	制助							
成	果	:	指	標	ブランド認定事	業者数										
指	標設	定 0	) 考え	方	ブランド認定制 して認定し、市 認知度をの向上 で欲しいと考え	内外へそ を図るこ	の魅力を とを目的	を発信するこ りとしている	とで、	優良産品の	り更なる	育成をはじめ	う、本市の			
区	分		年	度	R3年度			R4年度		R5年J	叓	毎年	F度			
目				標	15			20		20		20	)			
実				績	15			18								
自	己		判	定	妥 当 性		A			A	-	効 率 性	A			
	自 己 判 定 妥 当性         A 有 効性         A 効率性         A           工芸品を含む、新たに5品をブランド認定した他、認定期間が満了した15品の商品について、継続認定の手続きを行うなど、事業の安定的な継続に向けた取り組みを行い、引き続き、特産品を媒介した伊予市のPR及びイメージアップに努めた。「ますます、いよし。ふるさと特産品フェア」では、ブランド認定品を中心とした、市内特産品のPRを行い「食と食文化のまち伊予市」のイメージ醸成に大きく貢献した。															
	の苦労	第二年 計	所型コロテ後も見 前助制度 また、こ	ロナウ/ 引き続き 変の確立 ブラン	イルス感染症の影き事業に参画して 立が求められてい ド認定品支援事業 えるよう、さらな	響や物価 もらうた る。 補助金制	の高騰 めには 度を活	など、ブラ: 、経営の安? 用し、広報 <sup>®</sup>	ンド認定化や	事業継承者	等を含め	長期的な視	点に立った			
_	次		判	定	妥 当 性		A	有 効	性	A	3	効 率 性	A			
事業0	0方向	性事	事業継	・- 売と判断												
-		_			ド   認定重業も関	見始から 7	7 年が終	温1. 一定	の成里	か上げた部	分がある	ス反而 認知	<b>歯の更かる</b>			

「ますます、いよし。ブランド」認定事業も開始から7年が経過し、一定の成果を上げた部分がある反面、認知度の更なる向上に向け、これまでの実績を踏まえ、分析・検証していく必要がある。

# 二次判定以下の点について行政評価委員会に諮る

【行政評価委員会委員選定事業】 ブランド認定品の認知度向上に向け、より効果的な手法を検討すること。

- ・作り手側の想いが伝わるパンフレットになっており、好印象である。今後もストーリー性を大切に展開してもらいたい。
- ・ブランド認定は事業者支援の意味合いが強いと思うが、担い手の発掘育成という点は道半ばという感じである。
- ・パンフレットのデザインがとても素敵で、若い人たちにも手に取ってもらえそうな感じである。
- ・成果指標について。ブランド認定事業者の増加が認知度向上につながるのか。事業の目的に合致するものを設定すべき。
- ・事業承継に関するサポートも並行実施していかないと、ブランド認定事業は思ったように進まなくなるだろう。
- ・合併後の新伊予市という視点で、食品に限らない分野にも光を当てていく必要がある。また、市内3地域の産物をかけ合 わせて売り出せば、地域性や地域間のバリアを低くすることができるだろう。

#### 部 長 等 総 括

参画事業者が固定化しつつある。新たな担い手発掘のため、新規参画事業者にもメリットがある仕組みを検 コメント欄 討したい。ブランド認定品のPRを継続し、販路の拡大や新たな商品開発につながるよう努めたい。

#### 断 終 判

#### 事業の方向性 現状のまま継続

ブランド創出の意義を再度関係課で共通認識すること。併せて、ブランド品のPR強化及び新規事業者の参画 促進に努めること。 コメント欄

#### No.6

事	<del>-</del> 3	宏友	市	**	Ø	DEXII 社会事業	犯対策事業									
手	<b>→</b> /	務	事	業	名	防犯対象事業 快適空間都市の創	11生		担目	印问	/已恢1	'理`				
総	È	合		計	画	安全・安心に暮		いまちづくり								
	I 1	業	の	対	象	市民、防犯協会	りとの外占に強く	- 4 5 2 ( )								
-		_		ν,	<u> </u>	THE BUILDING										
事	1	業	Ø	目	的	防犯灯の設置補助 図ることを目的。		ぶ起こりにくい環	環境を整備し、	市民生	活の安全安心	いの確保を				
事	¥ ;	業	Ø	内	容	伊予地区防犯協会	会負担金及び防狐	2灯設置(修繕も	っ含む)事業殖	費の補助						
					事業	<b>養及び財源内訳</b>	(千円)		事	業活動の	実績(活動指	標)				
	項			目		R3決算	R4予算	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績				
直	[ :	接	事	業	費	6, 885	5, 924	5, 902	伊予地区防							
		玉	庫	支 出	金	0	0	0	犯協会負担	千円	3, 307	3, 334				
財源	ļ	杲	支	出	金	0	0	0	金							
源内	t	地	7	方	債	0	0	0	lt xn lr 和 B							
訳	,	そ	0	カ	他	0	0	0	防犯灯設置 費補助	千円	3, 825	2, 256				
	•	_	般	財	源	6, 885	5, 902	X 1111-93								
聙	は員(	の人	,I(	にんく	)数	0. 15	0.15	nt vo i man mu								
1)	ニン	当た	りの。	人件費	単価	7, 841	7, 794	防犯灯設置 数	灯	204	144					
×	直	接引	事業書	₹+人·	件費	8,061	7, 093	7, 071	<del>3</del> X							
主	こな	1 3	実 が	1 主	体	直接実施										
実施形態 (補助金・指定管理 料・委託 料 等 の 記 載 欄 )																
成	成 果 指 標 防犯灯新設及びLED取替を含めた修繕灯数															
指	旨 標	設	定の	) 考 <i>え</i>	方	防犯灯設置による	る犯罪発生抑止か	ぶ期待されるため	り、設置数でき	受益の度	合いを測定す	<sup>-</sup> る。				
Z	ζ	分		年	度	R3年度		R4年度	R5年	度	毎年	- 度				
E	1				標	220		220	220		220	0				
実	₹				績	204		144								
É	1	己	,	判	定	妥 当 性	A	有 効 性	A		効 率 性	A				
	業成夫した					U灯整備について ができた。	の要望を適切に	支援することで、	犯罪のない	安全で安	そ心なまちづく	くりの推進				
事業たり	の苦点、説	果題	R R			坊犯灯の倒壊等、										
		次		判	定	妥 当 性	A	有 効 性	A		効 率 性	A				
事業の方向性 事業継続と判断する																
			委員会		<b>定</b> 選定事 仕組み	<b>以下の点について</b> 業】 を作ること。(予										

## 外 部 評 価

- 事業の内容は、防犯灯設置に係る補助金と伊予地区防犯協会負担金の支出が二つの柱である。二つの性格の異なる取組を 一つの事業として実施していることが不適切に思う。そのため、成果指標の設定も難しくなっているのだろう。
- ・目的・内容が全く異なるものが含まれているため、評価が分かりにくい。分割して評価すべきではないか。
- ・防犯対策は行政がやるべきことである。事業の妥当性は積極的に5と判断してもよいだろう。
- ・防犯灯の設置は防犯対策に資する重要な取組である。今後も地域の取組を継続して補助してもらいたい。
- ・予算計上の仕方も含めて整理が必要な事業と考える。ただ、事務事業評価シートの記載内容を工夫することで、もう少し 分かりやすくすることはできるだろう。一層の努力をお願いしたい。

# 部 長 等 総 括

コメント欄 地域の治安向上は、地域住民を始めとする関係機関・団体・事業者等が緊密に連携して達成できる。いずれ にしても、即効薬のような取組はないが、地域の安全・安心を支える一員として努めたい。

### 最終判断

### 事業の方向性 下記の点を見直しの上、継続

コメント欄 当初予算に計上していなかった設置や改修などの緊急案件に対応できる仕組みを作ること。また、防犯カメラの設置要望に対する補助の仕組みを検討すること。

No.7	'												
事	務	事	業	名	行政改革実施計画	画進捗管	理事務			担当	部局	企画政	大策課
総	: {	Ì	計	画	参画協働推進都で 効率的で透明性の		-	ii ii					
事	業	の	対	象	行政改革に関する				<b></b> 上制				
事	業	Ø	目	的	簡素で効率的な行制の不断の見直り 的資源により、タ	しを行い	、全般的	りな改革を	計画的				
事	業	Ø	内	容	効率的な行政運営 政運営となるよう 域住民が一体と7	うな目標	を掲げ、	その目標					
				事業	<b>と費及び財源内訳</b>	(千円)				事美	業活動の	実績(活動指	標)
	項		目		R3決算	R4 <sup>-</sup>	予算	R4決	弹	項目	単位	R3実績	R4実績
直			業	費	11		15		13				
財			支出		0		0		0	設定指標数	項目	108	108
源	県	支		金	0		0		0				
内	地そ		<u>方</u> の	<u>債</u> 他	0		0		0	前年度進捗	ы	1	1
訳	- -		の 財		-				13	状況報告	口	1	1
Bat			<u> </u>		0. 10		15 0. 10		0. 10				
			人件費		7, 841	7, 794							
			大什有 費十人·		7, 841	792							
			<u>表:八</u> 布 主		直接実施		794		134				
実施	形態(	補助	<del></del> 金•指:	<del></del> 定管理 載 欄)	EIXX///E								
成			指	標	※評価対象外事	業のため	、設定な	L					
指	標 設	定 0	) 考え	上方									
区	5	}	年	度	R3年度			R4年度					
目				標									
実				績									
自	-		判	定	妥 当 性		-		効 性	-		功 率 性	-
	業 成 !	果 糸	且織内に	こ一定和	53次にわたり策分 星度浸透したとい こなるが、総合計	う判断か	いら、新	たな方針	を定めた	ないこととな	って。最	終年度の報告	告をもって
	の苦労	Ē.											
- 44	<u>ر ر</u>		判	定	妥 当 性		-	有	効 性	-	3	防 率 性	-
争亲	の方向	<u> 1111  </u> =	₿兼廃』	止と判断	াৰ ক								
=	Z	7	判	定	事業廃止と判断し	、行政評	平価委員会	会に諮る					
外	台	ß	評	価									
※二次判定で廃止と判断され、外部評価に諮るとされた事務事業ではあるが、これまでの外部評価において担当課から廃止 方針を示されているものであるため、事務局からの報告のみとした。													
部	長	等	総	括									
	メント欄	Ť			l は告のため、部長等	総括はな	なし						
事業	•	-	判・止・廃	断止を検	討								
	メント標	7	₹ 事業 7	が担って	いた主要事業の していくこと。	進捗管理	里につい	ては、各種	重の個別	削計画で設定	している	KPI等を活用	し、引き続

#### No.8

事	1 3	務	事	業	名	マイナンバー事	務		担当	i部局	市目	<b></b>
61.						快適空間都市の						·
総	ŝ	合		計	画	情報化社会に対	応した基盤づくり	)				
事		業	の	対	象	全ての日本国民						
事	Į.	業	Ø	目	的	めの社会基盤で バーカードは、 ら、マイナンバ	度は、行政の効率 あり、マイナン/本人確認とマイラー制度の成否をデ ドの交付管理を	バーは各種行政ヨ ナンバー確認が伊 テす指標として、	≒続きに使用 チせてできる	される番 唯一の公	:号である。 < :的書類である	ァイナン ろことか
事	Į į	業	Ø	内	容	らマイナンバー る。平成29年2月	ら12桁の番号が書 カードの申請・F   からコンビニで 用申請等の開始る	取得が開始され、 住民票などの証	電子証明を	用いる電	子申請が利用	月可能とな
						業費及び財源内訳					実績(活動指	
	項			E		R3決算	R4予算	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績
直	į į	接	事	業	費	18, 409	11, 332	10, 974	マイナンバーカード			
			庫っ	支 出	金	18, 090	10, 922	10, 633	申請件数	件	16, 294	30, 95
財源	_	果	支	出	金	0	0	0	(累計)			
内		也		5	債	0	0	0				
訳	7	7	0	•	他	4	48	0	申請率	%	35	8
			般	財	源	315	362	341				
			_	こんく		3.00	3. 00	3.00	マイナンバーカード			
				人件費		7, 841	7, 794	7, 794	交付件数	件	13, 956	24, 65
	-			十人		41, 932	34, 714	34, 356	(累計)			
実施	形態	(有	前助金		<u>体</u> 定管理 載欄)	直接実施直営			交付率	%	38	7
成		果		指	標	マイナンバーカ	ード交付率					
指	標	設!	定の	考え	方	マイナンバーカ <sup>・</sup> 該年1月1日)}	ード交付率 {マ/	<b>イ</b> ナンバーカート	で付件数 (	J-LI	S集計値)/	/人口(当
×	[	分		年	度	R3年度		R4年度	R5年	度	毎年	F度
E					標	43		65	75		75	5
実	<b></b>				績	38		71				
É	l	己		判	定	妥 当 性	E A	有 効 性	A	3	効 率 性	A
	業 成 夫し <i>†</i>				得促進加 めれた。	施策であるマイナ	ポイント実施の	担当関係者と連打	携して延長・	休日窓口	1を実施し、3	交付率の向
	事業の苦労し 申請者・交付者の大幅な増加に対応する職員の絶対数の不足のため、他の業務に支障をきたしたのみならた点、課題 ず、体調管理にも支障を及ぼす状態が続いた。職員の体制の再構築は年度途中では困難であった。											
_	•	次		判	定	妥 当 性	E A	有 効 性	A	3	効 率 性	A
事業	の方	向	生事	業継	売と判断	ffする						
る。・	令和	5年	F6月	末の耳	文得促進	イナンバーカー   進施策の期限に向 バーカードの保険	けて、マイナン	バーカードの円割	骨な申請・交	付に向け	た体制の確保	呆に努める

必要がある。また、マイナンバーカードの保険証₹ 対応を国の方針を踏まえて具体化する必要がある。 の保険証利用等を円滑に進めるためにも、未取得者(取得困難者を含む)に対する

### 次 判 定 以下の点について行政評価委員会に諮る

#### 【行政評価委員会委員選定事業】

国の認証基盤・デジタル社会のパスポートなど話題の多い本事業は、健康保険証廃止をはじめ、普及率拡大に資するカード の利便性や保有メリットの向上、利活用シーンの拡大等、国等の更なる取得促進に向けた、政府の取り組みが重要であり、 引き続き動向を注視し、踏まえた施策の推進に取り組む。

# 価

- ・事業内容には、マイナンバー制度の動向が記載されているだけである。実際の取組に合わせた内容に修正すべきである。
- ・本事業は国の政策に振り回されている側面が非常に強い。窓口の行政職員には少し気の毒な印象である。
- ・マイナンバーカードの交付率の向上が、本来の目的達成に資するものなのか。成果指標の検討が必要に思う。
- ・交付率の維持・向上を目指すのであれば、取得率の低い年代や申請に支援が必要な人等への働きかけが必要である。 ・事務事業評価シートに記載された内容は、本来求めている内容と違う印象。そのため、全体像が十分に読み取れない。
- ・マイナンバーカードの交付率を上げるには、利便性の向上に努めるべきである。行政手続きにおける活用を検討すべき。
- ・自治体の職員が大変苦労しているのを感じる。これは産みの苦しみと思い、引き続き頑張ってもらいたい。

### 部 長 等 総 括

窓口の職員は問合せ等を通じ、市民の生の声をうかがっている。手続きの中で行政の信頼を損なわないよう コメント欄 に、引き続き適切な事務処理に努めたい。

#### 判断 最 終

### 事業の方向性 下記の点を考慮の上、更に重点化

コメント欄 マイナンバーカードの普及向上に向け、的確な受領と交付管理を行い、行政手続への活用に繋げること。

#### No.9

110.3	,													
事	務	事	業	名	母子父子自立支持	爰事業				担当	部局	子育て	支援	課
総	·		計	画	健康福祉都市の倉	創造								
₩.	; <u> </u>	1	āT	Ш	次代を担う子ど	もたちの育	成支捷	受						
事	業	の	対	象	市内に居住する	母子家庭 <i>の</i>	母又に	は父子家庭	の父	(ひとり親家)	庭の親)			
					母子家庭の母又に	ナ公子宝白	えのインチ	が出来に対	アドイナコ	めよい姿枚	なm狙オ	スための姜に	<b>分比</b> 終月月	見での
事	業	の	目	的	修業環境の確保、									
					活一般の相談に	対応するこ	とによ	より、母子	家庭及	なび父子家庭	世帯の経	済的自立をう	を援す	-る。
-	- 4114	_	_	<u></u>	母子家庭の母又は	は父子家庭	€の父0	つ高等職業	訓練促	P.進給付金等(	の支給業	務、並びに生	上活一	-般の
事	業	の	内	容	相談。									
					美費及び財源内訳					1		実績(活動指		
	項		目		R3決算	R4予		R4決	• •	項目	単位	R3実績	R4	4実績
直		事	業	費	3, 799		, 480		425	支援措置事				
財			支出		2, 813	4	, 095	- 3	3, 318	業数	事業	3		
源	県	支	出	金	0		0		0					
内	地		<u>方</u>	債	0		0		0	_				
訳	そ		<u>の</u>	他	0		0		0	_				
TIÁI	_	般	財	源	986		, 385		, 107					
	員の人	•			0.30		0. 25		0. 25	_				
	工当た				7, 841		, 794		7,794					
	直接な				6, 151	-7	, 429	6	5, 374					
					直接実施					-				
実施料	形態(? 委 託 #	補助: ≒1. 生	金・指えの記録	定管理 裁 爛 )										
ተተ	女 11. 1	1 17	O) pL :	<b>非人</b> 11米1 /										
成		Į	指	標	支援措置事業数									
t⊑	信標 設	÷ 1	・キョ	+	母子家庭の母又に 談にあたっては									
11	17示以	Æ 0.	<i>)</i> ~ ~	- /J	数を成果指標と		<del>1</del> 4 (⊂ F	正 カ 40ペッチ	//・O和	E大に日立に;	糸りてい	· \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	欠1日 匡	上于未
区	· 5		年		R3年度			R4年度		R5年	<b>庄</b>	<b>与</b>	F度	
目			+	 標	3			3		3	<b> </b> 交	3		
実				 績	3			3		3		9		
自	-	<u> </u>	判	定	妥 当 性	:	A		功 性	A		 効 率 性		A
	_	$\overline{}$	1.3	~_	2 1 1	-	11	17	2) IT	- 11		<i>7</i> 7		
	業成男		<b>工業利</b> 月	用者に対	対し、毎月請求書	持参時に正	面談を	行い、状況	・ 確認し	こ努めた				
1 -	夫した点	3												
車業	の生学	- I	の事	堂で あん	るため事業内容の	説明が難1	しいが	<b>重業利田</b>	考か	らの問い合わ	4に41	ての説明す	ス際』	<i>71</i> +
	点、課題				こった説明が必要		∠ V ·//³.	、	1.日 い。	O ^ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	こ (これ)し	ン てマノロルウ19	ろ    以 (	-1d,
								+ -	الهار الما			+L ++		
	· カ		判	定	妥当性		A	有3	<b>为性</b>	A		効 率 性		A
事業	の方向	1王 手	∔ 兼継	売と判断	19 も									

ひとり親家庭の自立支援のため重要な制度であり、今後も周知・啓発に努め、適正な事務を行う必要がある。

#### 二 次 判 定 以下の点について行政評価委員会に諮る

#### 【行政評価委員会委員選定事業】

### 外 部 評 価

- ・成果指標が支援措置事業数であるが、事業実施が目的ではない。不適切な指標であるため、変更すべきである。
- ・活動指標は、市が実施する三つの事業の利用者数や受給者数を具体的に示すと分かりやすくなるだろう。
- ・事務事業評価シートを見ただけでは、事業の全体像を掴むことができなかった。記載内容に工夫が必要だと思う。
- ・約100万円の執行残がある。本事業を十分に周知し活用されているなら問題ない。そうでないなら改善が必要である。
- ・支援を受けている人が少ない印象がある。困窮していても声も出せずに耐えている人へ支援が届くようになればよい。
- ・いつまでも経っても切りがない。解決したことにならない事業である。気の長いサービスを提供するほかないだろう。

#### 部 長 等 総 括

コメント欄 本事業の重要性を審議をとおして更に認識した。市民への説明責任をしっかりと果たせるように、事務事業評価シートを再点検し、改めるべきところは修正したい。

#### 最終判断

### 事業の方向性 下記の点を見直しの上、継続

コメント欄 母子・父子家庭のニーズに応じた解決策へ繋ぐため、総合的な支援に取り組むこと。また、本事業の趣旨に 沿った課題を再確認し、設定された指標も併せて検討を加えること。

#### No.10

														_	
哥	≩ 矜	} }	事	業	名	新型コロナウイ	ルスワク	チン接種	重体制確何	呆事業		担当	部局	健康均	曾進課
糸	¢.	合	1	Ħ	画	健康福祉都市の	創造								
Д	3	ш		-1		生涯にわたる健	康づくり								
事	業	(	の	対	象	予防接種対象者	(5歳以	(上の全市	5民)						
事	業		の	目	的	新型コロナウイ 果として新型コ							の発生を	できる限り流	載らし、結
專	業 業	. (	の	内	容	予防接種法第69 接種を希望する 修、市民への周	市民全員 知・相談	が接種で	できるよ	う、人的	的体制の	の整備、	予防接 を行う。	種台帳等のミ	ンステム改
						<b>養費及び財源内訴</b>		- **		L 646-				実績(活動指	
	項			目		R3決算		予算	R4)		頂	目	単位	R3実績	R4実績
Ī			事	業	費	252, 922		82, 079		43, 980	追加排	妾種率			
а.			_	出		252, 023	2	24, 985	20	01, 456	(3回		%	0	71
財源															
内	地		<i>ナ</i>		債	0		0		0	オミニ株接種				
訳	そ の 他 899 600											以	%	0	84
	_	,	投	財	源	0	,								
	战員の					1. 70	1.70	H+++1	クロン 重家						
_	ヒエノ					7, 841	7, 794	(12歳		%	0	61			
	直接					266, 252	2	95, 329	2	57, 230	上)				
É	こ な	実	施	主	体	一部委託									
						医療機関等への (接種料68,366=									
Ā	ţ	果		指	標	オミクロン株対	ワクチン	接種率	(12歳以	L)					
抖	1 標 詞		· ග	考え	. 方	令和4年10月8日 ワクチン接種の クロン株対応ワ	進捗状況	記報告にお	さいて、2	2回目接	種を完	了した	12歳以上	の者を対象	
№		分		年	度	R3年度			R4年度			R5年	度		年度
E	-				標	0			60			0		0	1
ᢖ	•				績	0			61						
É	1	己	_	判	定	妥 当 🕆		S		効 性		S		効率性	A
	業 成 夫した		追	加接種	重につい	がないため、集団 いては、前回から を送付した。									
	事業の苦労した。接種間違いが無いよう掲示物やスタッフの周知等に配慮した。 た点、課題 た点、課題 たか、   大点、課題 ため、接種スケジュールや体制を見直す必要がある。														
-		次	_	判	定	妥 当 性	生	S	有	効 性		S	菜	功 率 性	A
			1		売と判断	<b>行する</b> 対応できるよう、	<b>桂</b> 却(107	生に奴み	医師么	・ 生しょ	浦地ナ	· 🖾 🔿 🏸	・1.1.2.必重	五がなる	
国の	以東ノ	ノ 亚丁(	ル多	火に	心迷()	刈心できるより、	1月 4 以以	米に劣め	、达即宏	守とも	) 埋捞を	凶つ(	. V'\ 必多	さいめる。	

#### 二 次 判 定 以下の点について行政評価委員会に諮る

#### 【行政評価委員会委員選定事業】

| 「日秋日間安貞日安貞民産年年末 | 予防接種法に基づく新型コロナウイルス感染症対策として特に重要視されている、ワクチンの供給量接種スケジュール、接種対象者等を把握しながら、速やかに接種済みへ反映する事で迅速な体制構築へ不断の努力に努める。

# 外 部 評 価

- ・活動指標が全て接種率である。いずれも高い実績で担当の努力は伝わってくるが、偏りがあり見直しが必要に思う。
- ・コールセンターの開設には結構な事業費を費やしている。費用対効果の観点で検証してもよいのではないか。
- ・今後は接種率の向上を目指しても限界がある。体制確保という点に的を絞って、指標を考え直すとよいのではないか。
- ・事業の目的を達成するためには、どの医療機関を受診しても接種してもらえるようにする方がよいと考える。
- ・ワクチン接種を真に希望する市民が、問題なく速やかに接種できる体制を整えることを第一に事業を進めてもらいたい。
- ・思いもかけない感染症の発生であったが、現場の職員はできる範囲でよくやってくれたと思う。本当に感謝している。
- ・コールセンターの運営費が非常に高い印象である。委託内容や経費の精査など、再考の余地があるだろう。

#### 部 長 等 総 括

コメント欄 情報が錯綜し、現場はかなり苦労してきた。ただ、ワクチン接種が滞りなく実施できるように、体制確保を 進めてきた。今後も国の動向を注視しつつ、接種率の維持向上に努めたい。

#### 最終判断

### 事業の方向性 下記の点を考慮の上、更に重点化

コメント欄 新型コロナウイルス感染症の発症予防及びまん延防止を図るため、希望する市民全員がワクチン接種できる 体制を引き続き確保すること。

#### No.11

+	マケ	击	न्मार	Ø	曲光江ルルのケエ	小灰事业			ID 11	<b>₩</b> 7 🖂	井 水下	: (H) ÷H
事	務	事	業	名	農業活性化緊急文				担当	部局	農業振	<b>大興課</b>
総	合		計	画	産業振興都市の創 魅力ある農業の扱							
事	業	の	対	象	JAえひめ中央	(各事業実施農業	<b>業者</b> )					
事	業	Ø	目	的	本市の農業活性化推進、安全な農産する。							
事	業	Ø	内	容	・特産果樹優良品 ・特産果樹高品質 ・土づくり体制動	質生産体制整備 整備事業 (バーク	事業(高齢農	家栗剪				
					業費及び財源内訳(				実績(活動指			
	項		E		R3決算		項目	単位	R3実績	R4実績		
直	接	事	業	費	4, 060	4, 325	3, 7		文田 掛井			
	玉	庫 :	支 出	金	0	0			産果樹苗 植栽面積	$m^2$	235, 230	207, 11
財	県	支	出	金	0	0		0	他从山頂			
源一内	地		方	債	0	0		0 高	齢農家栗			
訳	そ	(	カ	他	0	0			定園地面	$m^2$	380, 700	289,00
	_	般	財	源	4, 060	4, 325	3, 7	746 積				
職	職員の人工(にんく)数 人工当たりの人件費単				0. 15	0. 16	0.	16	). I// mm			
1人.	工当た	りの	人件費	単価	7, 841	7, 794	7, 7	run I	ーク堆肥 入面積	$m^2$	216, 100	303, 400
*	直接事	業	十人	件費	5, 236	5, 572	4, 9		八田相			
主	なる	€ 方	色 主	体	JAえひめ中央							
実施刑料・委	彡態(补 髪 託 料	助:	金・指 の 記	定管理載 欄)	補助金			計		0	832, 030	799, 519
成	果		指	標	当該年度苗木植栽	战・栗剪定・バー	ーク堆肥投入	の実施	面積/当該	年度実施	拖計画面積×	100
指	標 設	定の	) 考え	え方	実施計画面積に対いての効果を測る		を測定するこ	とで、	優良品種の	の導入や	生産体制の整	発備等につ
区	分		年	度	R3年度		R4年度		R5年	芰	毎年	度
目				標	100以上		100以上		100以.	上	1001	以上
実				績	100		97					
自	己		判	定	妥 当 性	A	有 効	性	A	3	効 率 性	A
	€成果		地域か	ら対象。	品目等の新たな要	望はなかったた	め、昨年に引	き続い	いての事業:	推進を図	]った。	
	の苦労 、課題				の中で、更なる地域 く必要がある。 -	域農業の活性化	を図るため、	地域の	)特性や実	情を踏ま	え、真に何だ	が必要か常
_	次		判	定	妥 当 性	A	有 効	性	A	3	効率性	A
事業0	の方向は	生事	業継	続と判断	fする							

# 事業の万回性|事業継続と判断する

みどりの食糧計画により、減化学肥料の県目標を達成する上で有機資材の導入支援はより活発に行われることが必要である が、その他の生産技術の確立と合わせた事業推進が必要となる。

#### 二 次 判 定 以下の点について行政評価委員会に諮る

【行政評価委員会委員選定事業】

#### 部 評 価

- ・JAえひめ中央に全てを任せている事業であり、市の工夫はどこにあるのか。事務事業評価シートから読み取れない。
- ・事業名に緊急とあるため、今すぐに対応が必要なものかと思った。継続実施の事業であるため、改称してもよいだろう。
- ・設定された指標を見て何が分かるのだろうか。本事業が伊予市の農業にどれほど貢献しているか測ることができない。
- ・補助金の成果や効果について、受給した農家から意見をもらうのもよい。次につながるヒントになると思う。
- ・苗木1本当たりの補助金額や補助率の見直し等は考える余地があるだろう。今後の課題として視野に入れてもらいたい。
- ・全体的に焼け石に水という感じである。高齢農家が増えている現状で、他に力を入れるべきものがあるように思う。

### 部 長 等 総 括

市民からすれば、農業関係の事業はどのようなことをしているか分かりにくいところもある。設定された指 コメント欄 標や記載内容を改めて確認し、市民に身近に感じられる事務事業評価シートにしたい。

#### 最 終 断

### 事業の方向性 下記の点を見直しの上、継続

成果指標・活動指標を再考し、事業の目的や内容が伝わりやすいものとすること。 コメント欄

#### No 12

No.	12															
事	務	事	業	名	中山間地域等画	直接支払交	で付金事業	<b>美</b> _			担当	部局		農業振	長興課	
4//			計	画	産業振興都市の	の創造										
総	<u> </u>	1	āľ	Ш	魅力ある農業の	の振興										
事	業	の	対	象	中山間地域等面	直接支払制	间度集落的	協定 (協)	定参加。	農業者	)					
					農業生産の不利											
事	業	の	目	的	加することに。											
					維持・確保につ で、多面的機能							<u>こ</u> 刈 し、:	父刊金	を父生	190	
=	- 444	Φ.	ф	숬	・地域振興法で活動の取組を											とし
事	業	の	内	容	た活動の取組を   ・交付金交付に								C111 9 4	3年14	争耒	
				<del></del>									<b>-</b>	-=:11-	(T)	
	項		E		業費及び財源内記 R3決算		予算	R4	11年	ті	事 事 事 目	業活動の 単位	美額(河 R3)		<del>膘)</del> R4∮	主结
直		事		<del>-</del> 費	77,612		78,027		<del>大异</del> 76, 374		₹ <b>日</b>	半世	ROS	に利	K45	天限
Æ			<u>*</u>		0		0		0, 314	一分免	農用地	ha		713		711
財	- 県	支		金	57, 242		56, 596		55, 552			IIa		113		/11
源	地	X	<u>岀</u> 方	<del></del>	01, 242		0		0					-		
内	そ		<u> </u>	他	25		141		140	_						
訳		般		源	20, 345		21, 290		20, 682	_						
膀	員のノ				0.60	_	0. 65		0.65	_						
	エ当た				7, 841		7, 794		7, 794	_						
	直接				82, 317		83, 093		31, 440	=						
	な				各集落協定	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,										
				定管理載 欄)	交付金											
成	t	Į	指	標	当該年度の対象	象農用地面	面積/前年	度の対象	農用地	也面積×	(100					
指	貨標 設	定(	の考え	え方	対象農用地面和 多面的機能の研					間地域	の農用は	地の保全	、農業	・農村	か有っ	する
Z	5	}	年	度	R3年月	度		R4年度			R5年	度		毎年	- 度	
E				標	100以_	Ŀ		100以上			100以.	上		100J	以上	
美				績	101			100								
É		3	判	定	妥 当	性	A	有	効 性		A	3	功 率	性		A
	業 成 男 夫した点				新規集落につい ることで取組の			果等を丁	寧に説	明し、	必要な	情報等を	適時に	提供	よる等	、伴
	の苦労 点、課題			地域の原必要がる	農業を取り巻く ある。	環境は、個	依然とし	て厳しい	ことか	ら、引	き続き	集落に対	するき	め細っ	やかな	支援
_	- <i>්</i>	_	判	定	妥 当	性	A	有	効 性		A	3	功 率	性		A
事業	の方向	性	事業継	続と判践	ffする											
るこ 加が	とが必	要で れ、	あり、 業務遂	担当者	次期に向けた準( の技量が望まれ しては担当者に	ることと	なる。ま	た、伊予	地区で	でも新規	見の取組	1が協議さ	されて	おり、	事務量	の増
Ξ	. <i>1</i>	<u>ر</u>	判	定	以下の点につい	て行政評	価委員会	に諮る								
【行	政評価	委員	会委員	選定事	業】											

#### 価 部 評

- ・事業の方向性が全く分からない。市として何をどの程度まで目指しているのだろうか。記載内容を改めてもらいたい。
- ・対象地域を減らさないのが最大の課題である。どのような取組をし、どのような成果が出たか伝わる指標が必要である。
- ・この補助金があるおかげで、高齢化が進んだ小さな集落でも何とか維持できており、非常に助かっている。
- ・企業化して農業に取り組む人もいる。農業を続けるのが厳しくなった人と企業をつなぐ取組があってもよいだろう。
- ・地域の人たちは制度の趣旨等は十分に理解しているだろう。集落に対するきめ細やかな支援を継続する方が重要に思う。
- ・地域の状況は大きく変わり、コミュニティ機能が低下している。若い人たちが参画してくれる制度にならないと厳しい。
- ・市内全域に占める田畑の総面積のうち、中山間地域に該当し制度を活用するものがどの程度あるか、把握すべきだろう。

### 部 長 等 総 括

農業の担い手不足を解消し、農地を守っていくことを目指して様々な取組を展開している。事業の目的と成 コメント欄 果指標、事業の内容と活動指標の関連性が分かりやすくなるように記載内容を検討したい。

#### 最 終 断

#### 事業の方向性 下記の点を見直しの上、継続

本事業への参加集落が増加し、農用地等の維持管理が適切に行われるよう制度の周知に努めること。また、 記載内容や設定指標を見直し、事業の目的や内容が伝わりやすい表現とすること。 コメント欄

#### No.13

事	務	事	業	名	林道管理事業				担当	部局	農林才	(産課
総	合		計	画	産業振興都市の創	引造						
小心			п	Ш	持続的な林業・オ	<産業の振興						
事	業	の	対	象	林道における維持	<b>持管理にかかる</b>	もの					
事	業	の	目	的	林業用道路として	(の機能を保全)	し森林資源	原の効率	図的な整備を	図る。		
事	業	の	内	容	伊予市管理林道の	)路面整正・崩	上撤去・側	溝清掃	· 整備開設	路線等の	用地測量登記	己業務
				事業	美費及び財源内訳(	千円)			事	業活動の	実績(活動指	標)
	項		目		R3決算	R4予算	R4決	算	項目	単位	R3実績	R4実績
直	接	事	業	費	16, 732	12, 329	1	2, 173	予算措置件			
	国	庫 :	支 出	金	0	0		0	数数	件	6	
財源	県	支	出	金	0	0		0	~ .			
内 _	地	7	方	債	0	0		0	施工実績件			
訳	そ		カ	他	6	0		7	数数	件	6	
	_	般	財	源	16, 726	12, 329	1	2, 166				
	-	_	にんく		0. 23	0. 18		0.18				
1人	L当た	りの	人件費	単価	7, 841	7, 794		7, 794				
			費+人		18, 535	13, 732	1	3, 576				
主	なり	巨方	色 主	体	伊予市							
実施形料・委	態(補 託 料	事	金・指えの記録	定管理 載欄)	請負・委託							
成	果		指	標	施工実績件数÷予	P.算措置件数						
指	標 設 !	定 σ.	) 考え	. 方	予算措置(計画) 図ることになる。	件数に対する抗	<b>拖工実績作</b>	<b>  数の害</b>	引合を上げる	ことによ	.り、適正な維	挂持管理を
					囚ることになる。							
区	分		年	度	R3年度		R4年度		R5年	度	毎年	F度
目				標	100		100		100		100	0
実				績	100		100					
自	己		判	定	妥 当 性	A	有	効 性	В		効 率 性	В
	成 果 した点		林組合	合等と連	重携し、林道の現	兄把握に努め適	切な維持領	管理を	図った。			
	)苦労( 、課題			と予算の	)中、適切な林道(		っていく	うえで、	経済的・効	率的な計	十画の検討が	必要であ
_	次		判	定	妥 当 性	A	有	効 性	В		効 率 性	В
事業の	方向付	牛 事	業継続	売と判断	iする							

車両の通行や路面排水に支障が無い程度には維持管理を行う必要があるが、限られた予算の中で全ての路線を網羅する事は 困難なため、利用状況や費用対効果等を考慮し、計画的に施工箇所を選定する必要がある。

#### 二 次 判 定 以下の点について行政評価委員会に諮る

【行政評価委員会委員選定事業】

# 外 部 評 価

- ・事業を実施しているのは分かるが、設定された指標では効率的・効果的に実施できているかどうかは読み取れない。
- ・林道整備の適切な実施や効率性を追求するには、設定された指標を見直すべきである。
- ・一次産業の中においても見直しが進んでいる分野である。今後も市の関与が必要な重要事業であると思う。
- ・事務事業シートが求めている記載内容と実際に記載されて内容がアンマッチングの状態であり、全く伝わってこない。
- ・緊急対応で整備することにより、助かっている人もいる。林道管理は大変だろうが、引き続き実施してもらいたい。
- ・本事業の使命は林道のメンテナンスにある。この程度の予算で全てメンテナンスしようという方が無理だと思う。優先順位をつけて、最低限度の整備を続けるしかないだろう。

# 部 長 等 総 括

コメント欄 維持管理の一番の目的は、利用者の安全を守るということである。限られた予算の中で、事故を誘因しない ことを第一に必要最小限の整備に努めたい。

# 最終判断事業の方向性現状のまま継続

コメント欄 定期的なパトロールの実施など、適切な維持管理に努めること。

# 第	110.14	1														
本業	事	務	事業	名	-	3 /14						担当	部局	学村	交教育記	果
事業の	総	合	計	画				直はべ	2 h							
# 業 の 目 的	車	業	の 約	多					\ <u>U</u>							
本	-	*	, ,,	<i></i>	1172201	11 121.0	/									
事業の内	事	業	の目	的										することで	で、聴え	<b>杂者自</b>
項	事	業	の 内	容	万人が住み	*続け	るために	は何が	伊予市	すに 必要	見かを	題材に、県				
国 東 支 出 金 0 0 0 0 mon AS D				事業	<b>美費及び財</b> 派	原内訳	(千円)					事	業活動の	実績(活動	指標)	
国	İ	頁			R3決算	算	R4 <sup>-</sup>	予算		R4決算	Ī	項目	単位	R3実績	R	4実績
財 東 支 出 金	直															
# 大	B# —												人		0	(
大きな   10   10   10   10   10   10   10   1												<i>ж</i> п				
一般 財 源																
職員の人工(にんく)数	八百															
1人工当たりの人件費単価	職員				(					0						
<ul> <li>主 な 実 施 主 体 伊子市</li> <li>実施形態(補助金・指定管理</li></ul>																
<ul> <li>実施形態(補助金・指定管理料・委託 料等の記載 欄)</li> <li>成果指欄。フォーラム会場参加者及び広くWEBによるライブ発信を行うことでの閲覧者数</li> <li>区分年度、R3年度 R4年度 R5年度 R4年度 B # 180 180</li></ul>	<b>※</b> ī	直接事	業費+人	件費		784		779			779					
株	主	な実	施主	体	伊予市		-									
指標設定の考え方     フォーラム会場参加者及び広くWEBによるライブ発信を行うことでの閲覧者数     区 分 年 度											0					
区分年度         R3年度         R4年度         R5年度         R4年度           日日根         180         180         -         -           自日根         180         0         0         -         -           自己判定         妥当性         B         有効性         B         効率性         B           事業成果工夫した点         事業成果工夫した点         事業の方向性         B         効率性         B         効率性         B           事業の方向性         事業廃止会期節する         本	成	果	指	標	フォーラム	参加	者及びwe	b配信閱	覧者							
日	指相	票設定	この考	え方	フォーラム	会場	参加者及	び広く	VEB(こ	よるラ	イブ	発信を行うこ	ことでの問	閲覧者数		
日	_		-		_	- <del>-</del> -			5.45					_		
実         積         0         −         −         −           自 己 判定         妥当性         B         有効性         B         効率性         B           事業成果工夫した点         事業開始当初は、翠小学校のエコ改修事業及び環境教育事業の検証報告を地域フォーラムにおいて行う予定たったが、延期を重ね、機構改革にともない、地域創生課に地域フォーラムが業務移管されることとなった。         事業の告労した点、課題         新型コロナ感染症の影響による延期後の開催時期については、出演予定者の対応などに時間を要することを含め、総合的に協議された。           一次判定         妥当性         A         有効性         A         効率性         A           事業廃止と判断する         事業廃止と判断する         新型コロナ感染症の感染が急速に拡大し、年度内において収束の見通しが立たないため、各界で活躍する著名人の目程調整が困魔を命ったことから、フォーラムの開催は一旦自紙とし、会場として予定している「IYO夢みらい館」の玄関口の整備に合わせて、R6年度末の工事完了後にお抜露目を兼ねて開催することが決定された。 これを機に担当が地域創生課になっため、これまでの検討内容を引き継ぎ、引き続き連携・協力できるものは行う必要がある。         ・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい。         ・率の上と判断し、行政評価委員会に諮る           外部 師価         ・型小学校に認けるエコ改修の成果をアピールするのが本来の目的である。フォーラム開催に目的が変わり違和感がある。・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい。         ・率、の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムを取得しまったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。・古い校舎を改修して、きれに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。           オント棚 改修された翌小学校で市内の子ども達が交流し、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。         カストのである。それこそが真の成果・カストの関心を表しまれたというのも失きによっていたらり、本事業を廃止とする。なまれたよっての機能を表しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と見全の健生の量の機能を表しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の健生の量の機能を表しているが、当該事業と関いなってたため、本事業を廃止とする。なまれたといるが、当該事業と関いによったため、当該事業を発したい。「学校の課金」と記述されたといる。本書を持定は、まれたというなが、当該事業を表しまれたまれたといる。           本のよりに対しなれたとい。         ・表れによりになったがよりまれたとのよりまれたとい。         ・表れたというなが、まれたというなが、まれたというなが、まれたといま		分	牛									R5年	<u></u>	R	4年度	
自 己 判 定 妥 当 性 B 有 効 性 B 効 率 性 B 表					-					,		_			_	
# またた点 だったが、延期を重ね、機構改革にともない、地域創生課に地域フォーラムが業務移管されることとなった。		2	判		妥		Ė	В	Ī	有 効	性	В		 効 率 性		В
<ul> <li>た点、課題 含め、総合的に協議された。</li> <li>一次 判定 妥当性 A 有効性 A 効率性 A</li> <li>新型コロナウイルス感染症の感染が急速に拡大し、年度内において収束の見通しが立たないため、各界で活躍する著名人の目程調整が困難であったことから、フォーラムの開催は一旦白紙とし、会場として予定している「I YO夢みらい館」の玄関口の整備に合わせて、R 6 年度末の工事完了後にお披露目を兼ねて開催することが決定された。これを機に担当が地域創生課になるため、これまでの検討内容を引き継ぎ、引き続き連携・協力できるものは行う必要がある。こ次 判定 事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮る</li> <li>外 部 評 価</li> <li>・ 翠小学校におけるエコ改修の成果をアピールするのが本来の目的である。フォーラム開催に目的が変わり違和感がある。・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい。・翠小学校を遠足先として活用するなど、市内の子ども達が自分の目で見て、肌で感じて、交流できる取組があるとよい。・本来の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムが中止になったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきる。た。った。・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。部長等総括</li> <li>コメント欄 数修された翠小学校で市内の子ども達が交流し、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。</li> <li>最終判断</li> <li>事業の方向性体・体止・廃止を検討</li> <li>オーラムの開催は、新たな担当課のもとで計画・実施されることになったため、本事業を廃止とする。なお、エコ改修に伴うエコフロー事業は完結しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の検</li> </ul>			だった													
事業の方向性 事業廃止と判断する 新型コロナウイルス感染症の感染が急速に拡大し、年度内において収束の見通しが立たないため、各界で活躍する著名人の日程調整が困難であったことから、フォーラムの開催は一旦白紙とし、会場として予定している「IYO夢みらい館」の玄関コの整備に合わせて、R6年度未の工事完了後にお披露自を兼れて開催することが決定された。これを機に担当が地域創生課になるため、これまでの検討内容を引き継ぎ、引き続き連携・協力できるものは行う必要がある。  一次判定 事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮る  外 部 評 価 ・翠小学校におけるエコ改修の成果をアピールするのが本来の目的である。フォーラム開催に目的が変わり違和感がある。・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい・翠小学校を遠定先として活用するなど、市内の子ども達が自分の目で見て、肌で感じて、交流できる取組があるとよい。・本来の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムが中止になったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。  部長等終括 コメント欄 改修された翠小学校で市内の子ども達が交流し、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。  最終判断 事業の方向性 休止・廃止を検討 フォーラムの開催は、新たな担当課のもとで計画・実施されることになったため、本事業を廃止とする。なお、よこよいの場像と児童の健							延期後の	)開催時	期に	ついてん	t, E	出演予定者の	対応など	に時間を	要する	ことを
新型コロナウイルス感染症の感染が急速に拡大し、年度内において収束の見通しが立たないため、各界で活躍する著名人の日程調整が困難であったことから、フォーラムの開催は一旦白紙とし、会場として予定している「IYO夢みらい館」の玄関口の整備に合わせて、R6年度末の工事完了後にお披露目を兼ねて開催することが決定された。これを機に担当が地域創生課になるため、これまでの検討内容を引き継ぎ、引き続き連携・協力できるものは行う必要がある。  二次判定 事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮る  外部 評価 ・翠小学校におけるエコ改修の成果をアピールするのが本来の目的である。フォーラム開催に目的が変わり違和感がある。・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい。・翠小学校を遠足先として活用するなど、市内の子ども達が自分の目で見て、肌で感じて、交流できる取組があるとよい。・本来の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムが中止になったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。  部長等総括 コメント欄 数像された翠小学校で市内の子ども達が交流し、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。 表 判 断 事業の方向性 休止・廃止を検討	_	次	判	定	妥	当 性	Ė	A		有 効	性	A	3	効 率 性		A
日程調整が困難であったことから、フォーラムの開催は一旦白紙とし、会場として予定している「IYO夢みらい館」の玄関ロの整備に合わせて、R 6年度末の工事完了後にお披露目を兼ねて開催することが決定された。これを機に担当が地域創生課になるため、これまでの検討内容を引き継ぎ、引き続き連携・協力できるものは行う必要がある。  二次判定 事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮る  外部評価 ・翠小学校におけるエコ改修の成果をアピールするのが本来の目的である。フォーラム開催に目的が変わり違和感がある。・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい。・翠小学校を遠足先として活用するなど、市内の子ども達が自分の目で見て、肌で感じて、交流できる取組があるとよい。・本来の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムが中止になったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。  部長等総括 コメント欄 改修された型小学校で市内の子ども達が交流し、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。  東業の方向性 休止・廃止を検討  フオーラムの開催は、新たな担当課のもとで計画・実施されることになったため、本事業を廃止とする。なお、エコ改修に伴うエコフロー事業は完結しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の健	事業の	方向性	事業廃	止と判断	iする				•			•				
・翠小学校におけるエコ改修の成果をアピールするのが本来の目的である。フォーラム開催に目的が変わり違和感がある。 ・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい。 ・翠小学校を遠足先として活用するなど、市内の子ども達が自分の目で見て、肌で感じて、交流できる取組があるとよい。 ・本来の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムが中止になったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。 ・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。 ・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。  お、事業を発出  コメント欄  ・数として、おいた保存しただけではない。であれているでは、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。  ・本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	日程調製口のこれを	整が困 整備に 機に担	難である 合わせて 当が地域	ったこと て、R 6 成創生課	から、フォ 年度末の工 になるため	ーラム 事完了 、これ	の開催!  後にお    までの	は一旦自 披露目を 検討内容	∃紙と と兼ね Fを引	し、会て開催き継ぎ	場と する	して予定して ことが決定さ	こいる「 された。	IYO夢み	らい館	」の玄
・翠小学校におけるエコ改修の成果をアピールするのが本来の目的である。フォーラム開催に目的が変わり違和感がある。 ・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい。 ・翠小学校を遠足先として活用するなど、市内の子ども達が自分の目で見て、肌で感じて、交流できる取組があるとよい。 ・本来の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムが中止になったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。 ・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。  ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		次	判	疋	争耒廃止と	判断し	、、仃政計	r恤委員	去に語	合つ						
・エコ改修で有意義な結果が出ているのであれば、それを外部に発信することにエネルギーを注ぐ方がよい。 ・翠小学校を遠足先として活用するなど、市内の子ども達が自分の目で見て、肌で感じて、交流できる取組があるとよい。 ・本来の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムが中止になったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。 ・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。 ・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。  お、大ント欄 は、 ・本本のもの子ども達が交流し、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。  ・本本の方向性 休止・廃止を検討 ・フォーラムの開催は、新たな担当課のもとで計画・実施されることになったため、本事業を廃止とする。なお、エコ改修に伴うエコフロー事業は完結しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の健			***		の出思させ	1.0 1	+70		\	-5.t. 7		、 二 ) BB <i>b</i>	¥) z □ 66.	ながわ かき	∓n πb λί	`
・本来の目的を考えれば、フォーラムを開催する必要性があるわけではない。フォーラムが中止になったからといって、何もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。 ・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。 ・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。  部長等総括  コメント欄  改修された翠小学校で市内の子ども達が交流し、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。  最終  事業の方向性 休止・廃止を検討  フォーラムの開催は、新たな担当課のもとで計画・実施されることになったため、本事業を廃止とする。なお、エコ改修に伴うエコフロー事業は完結しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の健	· エコ	改修で	有意義な	な結果が	出ているの	であれ	ば、それ	れを外部	『に発	信する	こと	にエネルギー	-を注ぐこ	方がよい。		
もしないというのも残念である。本来の目的達成に近づくような代替手段を検討すべきであった。 ・エコ改修の成果をまとめたパンフレットをホームページに掲載するとよい。市民の関心度を上げる一助になると思う。 ・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。  部長等総括  コメント欄  改修された翠小学校で市内の子ども達が交流し、実際に見て感じて分かってもらう。それこそが真の成果・効果である。引き続き情報発信に努め、広く周知する工夫をしたい。  最終判断  事業の方向性 休止・廃止を検討  フォーラムの開催は、新たな担当課のもとで計画・実施されることになったため、本事業を廃止とする。なお、エコ改修に伴うエコフロー事業は完結しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の健																
<ul> <li>・古い校舎を改修して、きれいに保存しただけではない。それによって成果・効果が出ていることを発信すべきだろう。</li> <li>部長等総括</li> <li>コメント欄</li></ul>	もし	ないと	いうのも	残念で	ある。本来	の目的	対達成に	近づく』	こうな	代替手	段を	検討すべきて	<b>ごあった</b> 。			
### ### ### ### #####################	· エコi	改修の	成果をま	まとめた.	パンフレッ	トをオ	·~ム~	ージに排	引載す	るとよ	۱, °	市民の関心原	まを上げ.	る一助にな	ると思	り。
コメント欄					いに保存し	ただけ	けではない	い。それ	によ	って成	果・	効果が出てい	いること	を発信すべ	きだろ	う。
<ul> <li>最終 判断</li> <li>事業の方向性 休止・廃止を検討</li> <li>フォーラムの開催は、新たな担当課のもとで計画・実施されることになったため、本事業を廃止とする。なお、エコ改修に伴うエコフロー事業は完結しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の健</li> </ul>			改修さ	れた翠ん									もらう。	それこそ	が真の	成果・
事業の方向性 休止・廃止を検討  フォーラムの開催は、新たな担当課のもとで計画・実施されることになったため、本事業を廃止とする。なお、エコ改修に伴うエコフロー事業は完結しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の健			1		川さ続き情報	<b></b>	に努め、	広く店	加する	3上天	<b>とし</b> 7	۲۷ ،°				
コメント欄 お、エコ改修に伴うエコフロー事業は完結しているが、当該事業と同時に実施した「学校の環境と児童の健					討											
	コメン	ノト欄	お、エ	コ改修に	こ伴うエコ	フロー	事業は完	記結 して	いる	5、当語	该事業	業と同時に実	施した	事業を廃 「学校の環	止とす 竟と児	る。な 童の健

No.1	5												
事	務	事	業	名	修学旅行キャンセ	アル料支援事業		担当	部局	学校教	女育課 (		
総		合	計	画	生涯学習都市の創 学校教育環境の 動			•					
事	業	Ø	対	象	<ul><li>・中止された修学</li><li>・修学旅行への参われたため、学校</li></ul>	≥旅行への参加の ≷加の申込みをし	ていた児童生徒	きが新型コロ			は感染が疑		
事	業	Ø	目	的				学校が予定していた修学旅行を中止したこと により、児童生徒の保護者の経済的負担を軽					
事	業	Ø	内	容	修学旅行代金の20	0%以内のキャン	でル料を児童生	E徒の保護者(	こ補助す	<sup>-</sup> る。			
				事第	美費及び財源内訳(	千円)		事	業活動の	実績(活動指	標)		
	項		E		R3決算	R4予算	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績		
直		-	-	費	0	0	0	小学校修学					
財			支 出		0	0		旅行キャン セル児童数	人	0	0		
源	県 地	支	<u>出</u> 方	<u>金</u> 債	0	0	0						
内	- 地 そ		<u>ハ</u> の		0	0	0	中学校修学 旅行キャン	人	0	0		
訳	_	般	助 財		0	0	0	ル生徒数			U		
贈			にんく		0.00	0.01	0.01						
			人件費		0	7, 794	7, 794	1					
			費+人		0	78	78	1					
Ì	な	実	施主	体	直営	L							
				定管理載 欄)	補助金								
成	: :	果	指	標	※評価対象外事業	きのため、設定なし	,						
指	存割	定定	の考え	i方									
区		分	年	度	R3年度		R4年度						
目				標									
実				績						<u> </u>			
自		3	判	定	妥 当 性		有効性	-		効 率 性	-		
	業 成 失した。	朱 占		て、補エ	より、修学旅行が <sup>。</sup> E予算を計上した。								
	の苦気	題											
-		欠	判	定	妥当性	-	有 効 性	-		効 率 性	-		
修学!	旅行を 防止対 を受か、 て実施	子を大変を	ども達 十分講 市では	じた上 、修学 っては	てかけがえのないで、その実施につ 旅行の教育的意義 旅行業者と連携し 事業廃止と判断し	いて特段の配慮 や児童生徒の心 ながら感染症対	を行うよう求め 情等を考慮し、 策を徹底するな	ている。 中止ではなく	延期扱い	いとする検討	を学校へ求		
外	·	部	評	価									
					外部評価に諮るとる ため、事務局から			での外部評値	面におい	て担当課から	秦止		
部	長	等	総	括									
ت :	メント机		事務局(	による報	告のため、部長等	総括はなし							
最	-	終 1世 <i>(</i>	判址。感	断	[ <del>].</del> †								
	メント相	<sub>B</sub> (i	多学旅行	行が中」	<u>i</u> 上にならず延期でる 類へ移行し、他の								
		/-	, "必采1	ムエックコ	双 79711 し、1世の	一年四(コヤンド	/・1 3900日 C ()	-10 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12 12	こツ、尹	末で併址 ( 9	.00°		

110.1													
事	務	事	業	名	小学校パソコン都	<b>效室運営</b> 事	事業		担当	部局	学校教	女育課 (	
総	合		計	画	生涯学習都市の創	削造							
小心			п	刯	学校教育環境の動	整備・充気	夷						
事	業	の	対	象	市立小学校児童								
事	業	Ø	目	的	急速な世界のIT等教育の段階から							達が、初	
事	業	o	内	容							した学力向上等のための 果的に学習できる環境を		
				事第	<b>美費及び財源内訳</b> (	(千円)			事	業活動の	実績(活動指	標)	
	項		E	1	R3決算	R4予	·算	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績	
直	接	事	業	費	33, 742	9	9, 280	9, 279	Im sterm . 0 . 3				
	国	庫	支出	金	0		0	0	児童用パソ コン台数	台	294	294	
財	県	支	出	金	0		0	0	コンロ奴				
源一	地		 方	債	0		0	0					
┃内┃	そ		<del>ວ</del>	他	0		0	0	児童数	人	1, 877	1,880	
	_	般	<del>"</del> 財	源	33, 742		9, 280	9, 279	1		_,	_, 550	
暗	員の人				0. 02		0. 02	0. 02					
	良の人 工当た				7, 841		7, 794	7, 794	1				
					33, 899		9, 436		1				
	直接事なる			体体	四国通建㈱	•	ə, 430	9, 435	-				
					四国迪建(株)				_				
				定管理載 欄)	パソコン賃貸借料	와 9,279	9,360円						
成	成 果 指 標   児童数/児童用パソコン台数												
指	標 設	定(	) 考え	i方	IT新改革戦略は	こおける都	教育情報	と化の主な目標値	Ī				
区	分		年	度	R3年度			R4年度					
目				標	4			4					
実				績	6			6					
自	己		判	定	妥 当 性		В	有 効 性	В	3	効 率 性	В	
	美成果した点		リース	契約期間	間まで使用し、今行	後はGIGA	スクーバ	レ構想一人一台	タブレットで	蓮用でき	さるよう調整	できた点。	
	の苦労 i、課題		?後は(	GIGAスク	ケール構想一人一・	台タブレ	ットに。	よる授業がうま	くできるよう	な体制へ	がくりが必要。		
-	次		判	定	妥 当 性		В	有 効 性	В	:	効 率 性	В	
事業(	の方向'	性	業廃.	止と判題	fする								
が増え いて」	といっ	つあ う通:	る中、 知を発	本年12 出した	ュータ教室へ移動 月に国が「GIGAス 。そこで、個人端 小学校から中学校	クール構 末では扱	f想に基 もうこと	づく1人1台端 のできない、発	末環境下での 表のための動	りコンピ 動画編集 <sup>9</sup>	ュータ教室の やウィンドウ	在り方につ	
=	次		判	定	事業廃止と判断し	、行政評	価委員会	会に諮る					
外	部		評	価				·					
※二次判定で廃止と判断され、外部評価に諮るとされた事務事業ではあるが、これまでの外部評価において担当課から廃止 方針を示されているものであるため、事務局からの報告のみとした。													
部	長	筝	総	括									
	ント欄	Ť			l 8告のため、部長等	総括はな	:L						
最	終		判	断									
				上を検	I 討								
	ント欄	1	人1台	端末の野	<del></del>	スクール	運営事業	<b>薬に移行するた≀</b>	め、令和4年9	月末のり	ース期間満っ	了を区切り	
		`	'	. //- (	, •• 0								

事総												
総	務	事業	名	中学校パソコン		業		担当	部局	学校教	女育課 一	
	合	計	画	生涯学習都市の創								
事	業	の 対	 象	学校教育環境の 市立中学校生徒	登佣· 九夫							
7	* *	(بر رن	-									
事	業(	の目	的	急速な世界の I 7 等教育から触れ 的とする。								
事	業	の内	容							した学力向上等のための 果的に学習できる環境を		
			事業	L 養及び財源内訳	(千円)			事	業活動の	実績(活動指	標)	
	項	E	1	R3決算	R4予算	<b></b>	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績	
直	接	事 業	費	16, 324	4,	. 283	4, 246	五种石田松				
	国庫	支出	金	0		0	0	平均年間授 業日数	日	194	193	
財源		支 出	金	0		0	0	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				
内	地	方	債	0		0	0	内技術・家				
訳	そ	<u>の</u>	他	0		0	0	庭授業日数	日	61	60	
TIÁI		般 財	源	16, 324	·	283	4, 246					
	員の人コ			0.02		704	0.02	1学級平均	1	9.0	0.1	
	1人工当たりの人件費単価     7,841       ※ 直接事業費+人件費     16,481					439	7, 794 4, 402	生徒数	人	30	31	
	はま			四国通建㈱	1,	433	4, 402	1#407#				
					料 2 596	110円		1教室平均 生徒用パソ	台	35	35	
料•	<ul> <li>と施形態(補助金・指定管理 パソコン賃貸借料 2,596,110円 4・委託料等の記載欄) 移設業務委託料 1,650,000円</li> <li>成果指標 1教室平均生徒用パソコン台数/1学級平均/2</li> </ul>						77 TF 4L 2+ W	コン台数	Г			
以	1 (											
指	i 標 設 定	標 設 定 の 考 え 方 中学校技術・家庭授業において、生徒1人1台利用できるように整備する。										
区	分	年	度	R3年度		R4:	年度	R5年	度	毎年	F度	
目			標	1		1		1		1		
美			積	1		1						
自	自 己 判 定         妥 当 性         B         有 効 性         B         効 率 性         B								В			
事業成果 工夫した点 大ラブルもなく、安定して運用できているが 契約期間を迎えても、パソコンに搭載してい 点。							ポート期間	まで再リース	して、則	改支出を抑制	制している	
	の苦労し 点、課題			の更新時に、現在 それに伴い契約金			容を実現する	るには、高ス	ペックな	:端末やイン:	フラ整備が	
_	· 次	判	定	妥 当 性	Ė	В	有 効 性	В	3	効 率 性	В	
事業	の方向性	事業縮	小と判践	riする				•				
が増	1 人 1 台端末があればコンピュータ教室へ移動して P C を使わなくて良くなると考え、コンピュータ教室を廃止する自治体が増えつつある中、本年12月に国が「GIGAスクール構想」に基づく 1 人 1 台端末環境下でのコンピュータ教室の在り方について」という通知を発出した。そこで、個人端末では扱うことのできない、発表のための動画編集やウィンドウズ環境での操作などが経験できる P C を小学校から中学校へ移設し、これらの有効活用を I C T 支援員と検討していく必要がある。											
	8 C 13 /EL	v c w			くへ移設し、			ICT支援員	しと検討し	していく必要	かめる。	
	. 次	判	定	縮小と判断し、行		これらの		ICT支援員	と検討し	していく必要	<i>ル・80 </i> る。	
操作:	. 次	判	定			これらの		ICT支援員	と検討し	していく必要	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
操作	次	判評	定		政評価委員	これらの <b>会に諮る</b>	)有効活用を					
操作 ・ど	. <b>次</b> 部の方向性	判 評 で整理し	定価でいく	縮小と判断し、行	政評価委員	これらの 1会に諮る	<ul><li>有効活用を</li><li>かため、自治</li></ul>	体は振り回さ	れている	る。気の毒に	思う。	
操作: ・ど: ・全:	<b>か</b> の方向性 員が全員	判 評 で整理し パソコン	<b>定 価</b> てを使う	縮小と判断し、行	<b>政評価委員</b> 自体がはつき ない。パソコ	これらの l会に諮る きりしない コン教室に	<ul><li>有効活用を</li><li>ため、自治 設置するパ</li></ul>	体は振り回さ ソコンの台数	れている	る。気の毒に する余地があ	思う。 るだろう。	
操作: ・ が ・ ・ 全 ・ ・ 技	<b>・ タ</b> の方向性 員が全員 術家庭科	判 評 で整理し パソうた	<b>定</b> 価 ていく を使う めだけ	縮小と判断し、行	<b>政評価委員</b> 自体がはっき ない。パソニ とかけている	これらの (会に諮る きりしない もつと数ない るのは、す	の有効活用を かため、自治 設置するパ ごくもった	体は振り回さ ソコンの台数 いないという	:れている なは検討っ : 印象でも	る。気の毒に する余地があ ある。その一	思う。 るだろう。 方で、市内	
操作: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<ul><li>・ 次</li><li>部の方向性員が全員が家庭科中学生がソコンを</li></ul>	<b>判</b>	<b>定</b> 価 てを使だれる がない できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	<b>縮小と判断し、行</b> のか文部科学省自 必要はほとんどな に多くの事業費を 会に向けた学習を レーションを工夫	<b>政評価委員</b> 自体がはつっこ さい。パている とかおために ですれば、言	これらの 会に諮る きりしない しない ころのは、するのは、するのは、 で発音台数を	の有効活用を かため、、自治パーでくしてもった。 を提供してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものも、 を収してものもの。 といるには、 をしてものもの。 といるには、 をしてものものものものものものものものものものものものものものものものものものもの	体は振り回さ ソコンの台数 いないという えることはま 費を縮減する	れている なは検討。 印象であ に常にあり ことが~	る。気の毒に する余地があ ある。その一 りがたく感じ できるのでは	思う。 るだろう。 方で、市内 る。 ないか。	
操作: <b>外</b> ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<ul><li>・ 次</li><li>部の方向性員が全員が家庭科中学生がインマをである。</li><li>・ が で で が で で が で で が で で で で で で で で で</li></ul>	<b>判</b> でパでを後ろりで、できる。 できる できます できます できる できます できる できます できる できます できる できます できる できます できる	<b>定</b> 価 てをめ報のおまで 新まで	縮小と判断し、行のか文部科学省自然のかないではほとんどない。 必要はほとと業者を 会に向けた学習を レーションを工夫 に、買取りかリー	<b>政評価委員</b> 自体がはつっこと かけるために とすれば、費り ースか、費り	これらの 会に諮る きりしない しない しない は、 で り り 数 室 で う の で り り り り の で り り り の で り り り の の り り り の の り り り の り り り り	n 有効活用を かため、、自治パーンではいる。 を置せるのものではいる。 を関係してものではいる。 を関係している。 を関係している。 を関係している。 はいるには、	体は振り回さ メコンという さることはま でを縮減する そが、より自	れている なは検討。 印象であり でおとがっことがっ とい整備る	る。気の毒に する余地があ ある。その一 りがたく感じ できるのでは を選択しても	思う。 るだろう。 方で、市内 る。 ないか。 らいたい。	
操作: ・が ・ど全: ・・技: ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	<b>か</b> の方向性員 が変度科が マンコンを使 カフィ年度端	判 でパで今使うで できせ で が を で が り で 後 う で り 数 関 男 の の た が れ た が れ た れ た う を り た り た が れ た れ た れ を れ た れ を れ を れ を れ を れ を れ を	<b>定</b> 価 てをめ報の新された	<b>縮小と判断し、行</b> のか文部科学省自 必要はほとんどな に多くの事業費を 会に向けた学習を レーションを工夫	<b>政評価委員</b> 自体がはつっこと かけるために とすれば、費り ースか、費り	これらの 会に諮る きりしない しない しない は、 で り り 数 室 で う の で り り り り の で り り り の で り り り の の り り り の の り り り の り り り り	n 有効活用を かため、、自治パーンではいる。 を置せるのものではいる。 を関係してものではいる。 を関係している。 を関係している。 を関係している。 はいるには、	体は振り回さ メコンという さることはま でを縮減する そが、より自	れている なは検討。 印象であり でおとがっことがっ とい整備る	る。気の毒に する余地があ ある。その一 りがたく感じ できるのでは を選択しても	思う。 るだろう。 方で、市内 る。 ないか。 らいたい。	
操作 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	<b>か</b> の方向性員 が変度科が マンコンを使 カフィ年度端	<b>判 評</b> でパで今使の末等 した情業 の表 を (1)	<b>定</b>	縮小と判断し、行のかないでは、 のか文部科学省をといる。 のか文部科学とのできる。 のか文部科学とのできる。 のである。 のである。 のでは、 のである。 のでは、 のである。 のでは、 のである。 のでもの。 のである。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも	政評価委員 自体がパインシャントン・シャン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン	これらの 会に諮る しななにするのでは、 きりの数は、 を数は、 を数をでするのでである。 とのでは、 とのでも、 とのでも。 とのでも、 とのでも。 と。 とのでも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 との	の有効活用を かた設置するった。 はないたしてもません。 に保減較やさいたる。 な転換期でなる。 なな転換期でなる。 ななをものたる。	体は振り回さ巻う サコンいるを縮よりととはする を指し、市の をおい、市の をおい、市の をおい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、たい。	れているなは検討ではいます。これをいるでは、おいるでは、ないでは、これをはいないでは、ままないでは、無理されては、ままないでは、ままないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	る。気の毒に する余地があ ある。そめの りがたく感で き選択しても むないところ したパソコン(	思う。 るだろう。 市内 る。 いか。 らいたい。 だろう。 が後能を十	
操作 - 外 ・ ど ・ と ・ 技 の パ 令 ・ 一 ・ 記 最 コ 最	<ul><li>次</li><li>部</li><li>の員</li><li>前</li><li>か</li><li>か</li><li>か</li><li>か</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li></ul>	判       評       でパで今使の末等       しなりでの表等       一分に       判	<b>定</b>	縮小と判断し、行のかまでは、 のか文部科学省を が要はは事業学習を 会に向けたをを対した。 関取事業の 以上、本事等の の更新時期も令れる が満来になってい	政評価委員 自体がパインシャントン・シャン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン・イン	これらの 会に諮る しななにするのでは、 きりの数は、 を数は、 を数をでするのでである。 とのでは、 とのでも、 とのでも。 とのでも、 とのでも。 と。 とのでも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 とのも。 との	の有効活用を かた設置するった。 はないたしてもません。 に保減較やさいたる。 な転換期でなる。 なな転換期でなる。 ななをものたる。	体は振り回さ巻う サコンいるを縮よりととはする を指し、市の をおい、市の をおい、市の をおい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、市の をもい、たい。	れているなは検討ではいます。これをいるでは、おいるでは、ないでは、これをはいないでは、ままないでは、無理されては、ままないでは、ままないでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	る。気の毒に する余地があ ある。そめの りがたく感で き選択しても むないところ したパソコン(	思う。 るだろう。 市内 る。 いか。 らいたい。 だろう。 が後能を十	
操作 ・ と全 ・ 技 の ・ の ・ 令 ・ 一 ・ 温 事業	<ul><li>次</li><li>部</li><li>の員</li><li>前</li><li>か</li><li>か</li><li>か</li><li>か</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li><li>り</li></ul>	<b>判 評</b> 理 コンた情楽 関 の 未 等	<b>定</b>	縮小と判断し、行のかないでは、 のか文部科学省をといる。 のか文部科学とのできる。 のか文部科学とのできる。 のである。 のである。 のでは、 のである。 のでは、 のである。 のでは、 のである。 のでもの。 のである。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも。 のでも	政評価委員 自体がはつっ ない。けったがいたいできますれい、またいまない。 でもしますれい、は精神のでもします。 17年度・そしまするか。	これらの 会に諮る りしない り数は算台数をの のこうと のこうと のこうと のこうと のこうと のこうと のこうと のこう	の有効活用を かた設置くしい。 かた設置くしい。 を置くしい。 を整備する。 なを整備する。 なを整備する。	体は振り回さ がはないないとと でいまない。 でいまない。 でいまではない。 でいまではない。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でいる。 でい	れているなけります。これでは、おいているなけります。これでは、おいては、ままままでは、まままままままままままままままままままままままままままままま	る。気の毒に する余地があ ある。そのの りがたるのにさ を選択してる もないところ したパソコ検に してかり検に	思う。 るだろう。 方で、市内 る。 ないか。 らいたい。 だろう。 の機能を十 対したい。	

担当部局

学校教育課

# No.18

事務事業名 学校給食センター運営事業

7	T 177		木		子区相及しノノ			1= =	H1.1.3	丁 [人七					
糸	٠.	合	計	ம	生涯学習都市の創	涯学習都市の創造									
ijvi	Č	_	ĒΙ	画	学校教育環境の	整備・充実									
事	業	の	対	象	市内小・中学校の	の児童・生徒									
事	<b>業</b>	o	В	的	市内小・中学校の	の児童・生徒の心	込身の健全な発達	きと、食生活の	の改善に	寄与する学校	統食を提				
寻	* 未	0)	目	цЛ	供する。										
事	業	の	内	容	在学する全ての		象に、関係法に基	<b>延づき栄養内</b>	容・衛生	基準等に配慮	【した学校				
₹	* *	0)	ניו	₽	給食を適切に提供	供する。									
				事美	業費及び財源内訳	(千円)		事	業活動の	実績(活動指	標)				
	項		E		R3決算	R4予算	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績				
直	接	事	業	費	144, 183	174, 935	156, 968								
	国	庫	支 出	金	0	0	0	学校給食平	日/1	185	18				
財	県	支		<u></u> 金	0	0	0	均提供日数	校						
源	地		<u></u> 方	_ <u></u>	0	0	0								
内					-			<b>第二十二人</b>			,				
訳	そ		<u>の</u>	他	0	2, 166		運営委員会	口	0					
		般	財	源	144, 183	172, 769	154, 802								
聙	は員の.	人工(	にんく	)数	6. 00	6.00	6. 00								
1)	とエノ	たりの	人件費	単価	7, 841	7, 794	7, 794	献立委員会	口	2	!				
×	直接	事業	費+人	件費	191, 229	221, 699	203, 732								
ŧ	こな	実	施主	体	直接実施(嘱託職	員8人及びパート	14人を含む。)								
				 定管理				見学会	人	94	124				
				足官垤 載 欄)			0	70.1 12	/	01	12				
11	× 110	11 3	** HO			の定当事業書(2	T 兴 古 光 击 决 体 本	5 / F: 88 A +8 A	·	(事業書)					
月	<u>ا</u>	果	指	標	給食1食当たりの 203,732,000円		里呂事業質次昇句 = 372円	7年前の旋洪	和良良多	(事業質)					
					200, 102, 000  1	· 011,010 K	. 012 1								
					給食1食当たり	アル亜わ級弗な手	テオニレで ビナ	だけってト	音識を持	って事業を始	は准できた				
排	信標 部	定定	カ考え	方	かを計るため	に必安は胜貝でん	1,9 - 2 - 1, 24	いたりュスト	<b>宮賊で1</b> 77	ラくず未せる	地でくるた				
					14 EHI 0/C+2										
₽	ζ ,	<del></del> 分	年		R3年度		R4年度	R5年	度	毎年	-				
E				標	355		338	372		0					
ᢖ	-				338		372	0		0					
			业川	÷	立 4 4	- c	右	c	7	対 亥 性	Λ				
É		3	判	定 7	妥当性		有効性	S		効率性 は内容が悪法を	A A				
É	l i	Ĩ	以前かり	うの「f	尹予市子育支援学	校給食費補助金	」のほか、「伊 <sup>-</sup>	予市学校給食	費高騰対	応事業費補明	助金」の制				
事	業成	果	以前かり	らの「d たに設い	→ 尹予市子育支援学 けることで、保護	校給食費補助金者負担を増やす	」のほか、「伊 <sup>-</sup> ことなく、今ま <sup>-</sup>	予市学校給食 でどおりの質	費高騰対 や量を保	応事業費補助 つた給食を担	助金」の制 是供するこ				
事	l i	果点	以前か 度を新た とがで	らの「d たに設い	→ 尹予市子育支援学 けることで、保護 このことにより、	校給食費補助金者負担を増やす	」のほか、「伊 <sup>-</sup> ことなく、今ま <sup>-</sup>	予市学校給食 でどおりの質	費高騰対 や量を保	応事業費補助 つた給食を担	助金」の制 是供するこ				
事工	業成また	果点	以前かり 度を新た とができること	らの「( たに設) きた。こ できた。	尹予市子育支援学 けることで、保護 このことにより、	校給食費補助金 者負担を増やす 児童生徒の健や	」のほか、「伊 <sup>-</sup> ことなく、今ま <sup>*</sup> かな発育を支援 <sup>-</sup>	予市学校給食 でどおりの質 すると共に、	費高騰対 や量を保 食育や地	応事業費補助 たた給食を打 産地消の推定	助金」の制 是供するこ 進に寄与す				
事工	業成またが	果点がし	以前かり 度を新た とができること	らの「fd たに設い きた。こ できた。 わたり	サ予市子育支援学 けることで、保護 このことにより、 給食材料費の高騰	校給食費補助金 者負担を増やす 児童生徒の健や が継続しており	」のほか、「伊 <sup>-</sup> ことなく、今ま <sup>*</sup> かな発育を支援 <sup>*</sup> 、今後において <sup>*</sup>	- P市学校給食 でどおりの質 すると共に、 - し、どれだけ	費高騰対 や量を保 食育や地 価格が高	応事業費補助 はった給食を打 の産地消の推定 に勝するのかり	助金」の制 是供するこ 進に寄与す				
事工	業成また	果点がし	以前かり 度を新た とができること	らの「fd たに設い きた。こ できた。 わたり	尹予市子育支援学 けることで、保護 このことにより、	校給食費補助金 者負担を増やす 児童生徒の健や が継続しており	」のほか、「伊 <sup>-</sup> ことなく、今ま <sup>*</sup> かな発育を支援 <sup>*</sup> 、今後において <sup>*</sup>	- P市学校給食 でどおりの質 すると共に、 - し、どれだけ	費高騰対 や量を保 食育や地 価格が高	応事業費補助 はった給食を打 の産地消の推定 に勝するのかり	助金」の制 是供するこ 進に寄与す				
事工	業成またが表した。	果点がし	以前かり 度を新た とができること	らの「fd たに設い きた。こ できた。 わたり	サ予市子育支援学 けることで、保護 このことにより、 給食材料費の高騰	校給食費補助金 者負担を増やす 児童生徒の健や が継続しており は限りがあるた	」のほか、「伊 <sup>-</sup> ことなく、今ま <sup>*</sup> かな発育を支援 <sup>*</sup> 、今後において <sup>*</sup>	- P市学校給食 でどおりの質 すると共に、 - し、どれだけ	費高騰太保 会育や地 価格が高 有効活用	応事業費補助 はった給食を打 の産地消の推定 に勝するのかり	助金」の制 是供するこ 進に寄与す				
事工	業成またが表したが	果点・労堕・欠	以前かれ 変をがでと とがこと 関にない。	らの「何 たにきできた。 わたまた。 たまた、	サ予市子育支援学 けることで、保護 このことにより、 給食材料費の高騰 市の一般財源に 妥当性	校給食費補助金 者負担を増やす 児童生徒の健や が継続しており は限りがあるた	」のほか、「伊 <sup>-</sup> ことなく、今ま ことなく、今ま かな発育を支援・ 、今後において <sup>1</sup> め、国からの補助	予市学校給食でどおりの質けると共に、 も、どれだけ か金制度等を	費高騰太保 会育や地 価格が高 有効活用	応事業費補軽 った給食を抗 連定地消の推定 「騰するのかり」 する必要がる	助金」の制 是供するこ 進に寄与す 見通しがた ある。				
事工	業成またの苦気点、課場の方向の方向の方向の方向の方向の方向の方向の方向の方向の方向の方向の方向の方向の	果点・労頭・欠・性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	以度をがさと サンス	らたきで たきで たま たま たま たま たま たま たま たま たま たま	サ子市子育支援学 することで、保護 このことにより、 給食材料費の高騰 市の一般財源に 妥当性 折する	校給食費補助金 者負担を増やす 児童生徒の健や が継続しており は限りがあるた	」のほか、「伊 ことなく、今ま かな発育を支援 、今後において、 め、国からの補助 <b>有 効 性</b>	予市学校給食でどおりの質けると共に、 し、どれだけめ金制度等を	費高騰 を 会育や 価格が 高 高 の の の の の の の の の の の の の	応事業費補度 たった給食を打 記産地消の推定 議職するのかり 計する必要があ	加金」の制 是供するこ 性に寄与す 見通しがた ある。				
事 工 事 た 事 た 事 食	業成が表した。芸の苦気は、課題の方向材料費	果点り題欠性価	以度とる 長さ 東な サ業 が高 本 本 本 本 本 本 本 本 に に に に に に に に に に	らのに のに たたきで わま <b>定と</b> した <b>にたき</b> たま <b>にたき</b> たま <b>にたき</b> たま <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたき</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたた</b> <b>にたたた</b> <b>にたたた</b> <b>にたたた</b> <b>にたたた</b> <b>にたたた</b> <b>にたたた</b> <b>にたたた</b> <b>にたたたた</b> <b>にたたたた</b> <b>にたたたた</b> <b>にたたたた</b> <b>にたたたたた</b> <b>にたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた</b>	サテ市子育支援学 することにより、 給食材料費の高騰 市の一般財源に 妥当性 新する ける中、保護者負	校給食費補助金 者負担を増やす 児童生徒の健や が継続しており は限りがあるた	」のほか、「伊 ことなく、今ま かな発育を支援 、今後において、 め、国からの補 <b>有効性</b> なく、これまで	予市学校給食質 でどおりのと共に、 も、どれだけ 助金制度等を A どおりの栄養	費高騰太保 や量を保 食育や地 価格が高 有効活用	応事業費補軽 たった給食を打 近産地消の推送 に関するのかり はする必要がる では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	加金」の制 を は を は に ある。 A た 給食を提				
事工業に事に	業成またがまた。まの苦気をある。これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、	果点・労働・欠・性のの、	以度とる	らたたきで わま <b>定と</b> し対	サ子市子育支援学 することで、保護 このことにより、 給食材料費の高騰 市の一般財源に 妥当性 折する	校給食費補助金 者負担を増やす 児童生徒の健や が継続しており は限りがあるた と 人 は関りがあるた と は に は に は に は に は に れ も は と り に も と も と も と も と も と し と も と も と も と と も と と と と	」のほか、「伊まった。 このはか、「伊まったな発育を支援 ないな発育を支援 ないでは ない できまかな 性 なく、これまできません ないこれまできます かいます かいます かいます かいます かいます かいます かいます かい	予市学校給食質、 予でどと共に、 も、どれだけを も、どれだけを A どおり後も更	費高騰女 会食育や地 価格が活用 ボバランンがに物価が	応事業費補軽 たった終発を対 の定地消の推送 に関するのかり はする必要がある。 な要性 なのかり なのかり なのかり なのかり なのかり なのかり ないで ないで ないで はいるのかり ないで はいるのかり ないで はいるのかり はいるのかり ないで はいるのかり はいるのから はいるのから はいるのから はいるのから はいるのが はいるいのが はいる。 はいるのが はいるい。 はいるい。 はいるい。 はいるい。 はいる。 はいる。 はい	助金」の制 のるこす 単に寄与す 見通しがた ある。 A た給会合は た場った場				
事工事た事 食すの慎	業人たの苦課がある時重の対る時重なで判	果点 ら頃 欠 性の、財断価新源が	以度とる 長た <b>判業</b> がコな要か新でと にい。 <b>判業</b> がコな要	らたきで わま <b>定と</b> し対付る ・	サ子市子育支援学 けることにより、 により、 にからなけれています。 一般財源に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	校給食費補助金 者負担を増やすり 児童生徒の健や が継続しており は限りがあるた と 人 担を増やすこと と 国の制度を活用	」のほか、「伊 ことなく、今ま かな発育を支援 、今後において め、国からの補 <b>有 効 性</b> なく、これまでき して対応し独自の するか市独自の	ー学校給食質・ とれだけを がまり かまり を がった とり とり という という を がった いっかん はいか ない かん	費高騰 次 保 を は で は で で で で で で で で で で で で で で で で	応事業費補財会のためでは、   応事業費補財会のためでは、   のなりでは、   のなりでは	助金」の制 のるこす 単に寄与す 見通しがた ある。 A た給会合は た場った場				
事工事た事 食すの慎	業成だの苦葉という。大きないでは、一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一	果点 ら題 欠 性の、財断業	以度とる 長と <b>判業</b> がコな要委 か新でと にい。 <b>判業</b> がコな要委	らたきで わま 定と し対付る間 ・ しか ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	サ子市子育支援学 けることにより、 合食材料費の高騰 市の一般財源に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	校給食費補助金者負担を増やすり、は限りがあるため、 は限りがあるため、は限りがあるため、は限りがあるため、 はに補助の制度を活用の制度を活用の制度を活用の制度を活用の、 はに調理と配送の、	」のほか、「伊 ことなく、今ま かな発育を支援 、今後において補助 有 効 性 なく、これまでき して対が市独自の 一括委託の調査	ー学校給食質・ とれだけを がまり かまり を がった とり とり という という を がった いっかん はいか ない かん	費高騰 次 保 を は で は で で で で で で で で で で で で で で で で	応事業費補財会のためでは、   応事業費補財会のためでは、   のなりでは、   のなりでは	助金」の制 のるこす 単に寄与す 見通しがた ある。 A た給会合は た場った場				
事工事た事 食すの慎	業成だの苦葉という。大きないでは、一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一方の一	果点 ら頃 欠 性の、財断価新源が	以度とる 長た <b>判業</b> がコな要か新でと にい。 <b>判業</b> がコな要	らたきで わま 定と し対付る間 ・ しか ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	サ子市子育支援学 けることにより、 により、 にからなけれています。 一般財源に ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	校給食費補助金者負担を増やすり、は限りがあるため、 は限りがあるため、は限りがあるため、は限りがあるため、 はに補助の制度を活用の制度を活用の制度を活用の制度を活用の、 はに調理と配送の、	」のほか、「伊 ことなく、今ま かな発育を支援 、今後において補助 有 効 性 なく、これまでき して対が市独自の 一括委託の調査	ー学校給食質・ とれだけを がまり かまり を がった とり とり という という を がった いっかん はいか ない かん	費高騰 次 保 を は で は で で で で で で で で で で で で で で で で	応事業費補財会のためでは、   応事業費補財会のためでは、   のなりでは、   のなりでは	助金」の制 のるこす 単に寄与す 見通しがた ある。 A た給会合は た場った場				
事工   事た     事   事     合   第     会   ま     の   は     こ   そ     こ   そ     こ   ま	業夫した。苦課にの材る時重、この材の時重、この材のでは、一次には、一次には、一次には、一次には、一次には、一次には、一次には、一次に	果点 労頭 欠 性の、財断業 欠 委員 一種 一個新源が務 員	以度とる	らたきで わ <b>・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ </b>	サ子市子育支援学 けることにより、 治食材料費の高騰 市の一般財源に ・ 一	校給食費補助金 者負担を増やすいは限りがあるた は限りがあるた と は限りがあるた と は限りがあるた と は限りがあるた と はに補助度を活用 別に調理と配送の で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	」のほか、「伊まっとなく、今まったな発育を支援 、今後において補助 ・一人をはないではないでは、 ・一人では、一人では、 ・一人では、 ・一人によった。 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、	一学校給食質・ 一学校給食質・ 下おおとまれたでするとまれたでするとまれたでするとまれたでするとまれたでする。 も、どれだ等を は、どれだ等を は、とれだける。 本の後を計する。 が、また、策を引き続いている。 が、また、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	費高騰を申せせる。	応事業費補財会のたいでは、 「勝するのか」は、 「勝するのか」は、 「ありまするのか」は、 「ないでは、 「な	加金」の制 の制 の制 の制 の も は に 寄 与 し が た は の る 。 A た 給 会 会 は る 。 。 。 。 る 。 。 を は も た も 。 を と は 。 を も と は 。 と も と は 。 と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と ら と も と と も も と る と も る と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も る も る も る も る も る も る も る る る る る る る る る る る る る				
事工   事た   事給供そでま   二 行校	業夫の成たが、一の材の時重、一政治を持ち、一の対ののでは、一の対ののでは、一の対ののでは、一の対のでは、一の対のでは、一の治のでは、一の治のでは、一の治のでは、一の治のでは、一の治のでは、一の対し、一の対	果点り頃々付の、財断業々委安	以度とる 長た <b>事 格型と必の 当 会かが新でと にい。 継 高口ると託</b> 員持	らたきで わま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的 「設。た。 りた、 <b>判</b> 続応金。を 事な	サテ市子を接字 サラー・サース とにより、 会食材料般財源に 会食材料般財源に 安当性 がする ける中、保養を原う、 毎時の有無により、 延長して、そのに 以下の点について 業】が行えるよう	校給負担を増やを が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 がというでは、 は限りがあるたい。 は限りがあるたい。 は限りがあるたい。 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは	」のほか、「伊まっとなく、今まったな発育を支援 、今後において補助 ・一人をはないではないでは、 ・一人では、一人では、 ・一人では、 ・一人によった。 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、	一学校給食質・ 一学校給食質・ 下おおとまれたでするとまれたでするとまれたでするとまれたでするとまれたでする。 も、どれだ等を は、どれだ等を は、とれだける。 本の後を計する。 が、また、策を引き続いている。 が、また、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	費高騰を申せせる。	応事業費補財会のたいでは、 「勝するのか」は、 「勝するのか」は、 「ありまするのか」は、 「ないでは、 「な	加金」の制 の制 の制 の制 の も は に 寄 与 し が た は の る 。 A た 給 会 会 は る 。 。 。 。 る 。 。 を と は 。 も 。 を と は 。 を と は 。 と も と も と も と も と も と も と も と と も る と も と る と も る と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も る も る も る も る も る る る も る も る る る も る る る る る る る る る る る る る				
事工   事た   事給供そでま   二 行校	業夫した。	<b>果点 り題 欠 性</b> の、財断業 <b>欠</b> [委安間 ] 「大 [本] 「	以度とる 長こ <b>  1                                  </b>	ったきで わ <b>売</b> 騰ナ交な期 <b>選</b> 続す 「設。た。 りた <b>単</b> 続応金。を <b>事</b> な調	サ子市子育支援学 けることにより、 治食材料費の高騰 市の一般財源に ・ 一	校給負担を増やを が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 がというでは、 は限りがあるたい。 は限りがあるたい。 は限りがあるたい。 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは	」のほか、「伊まっとなく、今まったな発育を支援 、今後において補助 ・一人をはないではないでは、 ・一人では、一人では、 ・一人では、 ・一人によった。 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、	一学校給食質・ 一学校給食質・ 下おおとまれたでするとまれたでするとまれたでするとまれたでするとまれたでする。 も、どれだ等を は、どれだ等を は、とれだける。 本の後を計する。 が、また、策を引き続いている。 が、また、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	費高騰を申せせる。	応事業費補財会のたいでは、 「勝するのか」は、 「勝するのか」は、 「ありまするのか」は、 「ないでは、 「な	加金」の制 の制 の制 の制 の も は に 寄 与 し が た は の る 。 A た 給 会 会 は る 。 。 。 。 る 。 。 を と は 。 も 。 を と は 。 を と は 。 と も と も と も と も と も と も と も と と も る と も と る と も る と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も る も る も る も る も る る る も る も る る る も る る る る る る る る る る る る る				
事工   事た   事給供そでま   二 行校	業夫した。	果点り頃々付の、財断業々委安	以度とる 長た <b>事 格型と必の 当 会かが新でと にい。 継 高口ると託</b> 員持	らたきで わま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的 「設。た。 りた、 <b>判</b> 続応金。を 事な	サテ市子を接字 サラー・サース とにより、 会食材料般財源に 会食材料般財源に 安当性 がする ける中、保養を原う、 毎時の有無により、 延長して、そのに 以下の点について 業】が行えるよう	校給負担を増やを が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 が継続してあるたい。 がというでは、 は限りがあるたい。 は限りがあるたい。 は限りがあるたい。 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは、 はは	」のほか、「伊まっとなく、今まったな発育を支援 、今後において補助 ・一人をはないではないでは、 ・一人では、一人では、 ・一人では、 ・一人によった。 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、 ・一、	一学校給食質・ 一学校給食質・ 下おおとまれたでするとまれたでするとまれたでするとまれたでするとまれたでする。 も、どれだ等を は、どれだ等を は、とれだける。 本の後を計する。 が、また、策を引き続いている。 が、また、では、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は	費高騰を申せせる。	応事業費補財会のたいでは、 「勝するのか」は、 「勝するのか」は、 「ありまするのか」は、 「ないでは、 「な	加金」の制 の制 の制 の制 の も は に 寄 与 し が た は の る 。 A た 給 会 会 は る 。 。 。 。 る 。 。 を と は 。 も 。 を と は 。 を と は 。 と も と も と も と も と も と も と も と と も る と も と る と も る と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も と も る も る も る も る も る る る も る も る る る も る る る る る る る る る る る る る				
事工   事た   事給供そでま   【学と     一業食すの慎た   一行校配	業夫し、方に費がない。 一次 対る時重、 一 政給送 トーク 対るの でいる	果点 ら頃 欠 付の、財断業 欠 委安間 部	ソ度とる そと <b>                                     </b>	。たきで わ <b>読</b> 騰ナ交な期 選続す のにたき たま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的る 価 制続応金。を 事な調	サテ市子を接字 サラー・サース とにより、 会食材料般財源に 会食材料般財源に 安当性 がする ける中、保養を原う、 毎時の有無により、 延長して、そのに 以下の点について 業】が行えるよう	校給食糧補助金を持備助金を存置生徒の健やのは限りがあるをといる。  「は限りがあるをは、 は限りがあるをは、 は限りがあるをは、 は関しておりは、 は限りがあるをは、 は関しておりは、 は関いでは、 は関いては、 は関いないは、 は、 は	」のほか、「伊まった (伊まった) ではなくである (中まった) ではない では (中まった) では (中ま	一学校会食質・ と と と と と と と と と と と と と と と と と と と	費高騰を中地 作品 できる	応事業費補財会のためでは、 になり、 になり、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	か か か か も は に お あ る。 A た お よ る。 A た お よ な た は た よ な た は た な た は た た ま な た な た は た な た は 、 え な た は 、 え な た は 、 え え た ま え 、 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 え 、 、 、 え 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、				
事工:事た:事給供そでま二行校配事た:業食すの慎た二行校配タ子	業人にの苦味に、この苦味に、このお送り、このおきまで、このおきまで、このおきない。このおきない。このおきないでは、このおきない。このおきないは、このおきない。このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、このは、	果点 り頭 欠 門の、財断業 欠 委安間 部 が 一二 価新源が務 員定委 食	以度を55 長と <b>半 基 格型と必の 半 会か託 評 べ</b> か新でと にい。 <b>半 継</b> 高口ると託 <b>評</b> るします。	らたきで わ <b>読</b> 騰ナ交な期 <b>選続す の</b> のにたき たま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的る <b>価</b> で 間。た。 りた、 削続応金。を 事な調 あ	サテ市子支援学 サオることにより、 給食材料費財源 性 所する いは時時の有無に は時の有無に、その間 以下の点についる 業別で完に努めるこ	校給食糧補助金を 者負担を使やいない。 が継続しておりは限りがあるたと は限りがあるたと は限りがあるたと はは補助制度を記して は間でする。 はに補の制度を記して ででは、 はに調理と配きる。 にていては、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 に	」のほか、「伊まったな発育を支援 ことな発育を支援 、今後においる神 ・一名 か 性 なく、これまできいまするかが市独自の 一括委託の調査 にに諮る 関係者・施設管	中学校会食質・ という	費高騰を中地 作品 できる	応事業費補財会のためでは、 になり、 になり、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には	か か か か も は に る 。 A た お も は の る 。 A た お も た は た は た は た も た も た も た も た も た も た も も た も た も た も た も も た も も た も た も も た も も も も も も も も も も も も も				
事工:   事た。   事給供そでま   二行校配 タ子子	業大 の苦課 がられた から では かんだん から では かんだん から では かんだん から では かん	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小 一個 価新源が務 員定委 食 学	以度を55 長と <b>判 集 格型と必の 判 会か託 評 べ 校</b> 的新でと にい。 <b>判 継</b> 高口ると託 <b>評</b> る 中 も 中	らたきで わ <b>読騰</b> ナ交な期 <b>定</b> 選続す <b>何</b> の 学のにたき たま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的る <b>何</b> で 校 間	サテ市子支援学 サランス とにより、 治食材料費財源 治食材料般財源 治市の一般財源に 一般では、 一般では、 一般では、 一般でする。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	校給食力を持続している。  「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	」のほか、「伊まった」のほか、「今まったな発育を支援 、今後においる ・今後においる ・有 効 性 なく、これまできい。 ・してるか、市はの調査 ・にである。 ・にである。 ・にではないではない。 ・・。 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	中学校のに、 おいま と は に が ま か か か か か か か か か か か か か か か か か か	費高騰を中地 作品 を で で で で で で で で で で で で で で で で で で	応事業費補財会を に応事業会を に応事業会を に応事業会を に応事業会を に応事業会を に応事業会を にある必要 性 ないまするのかがる ないまするのかがる ないまする。 ないまする。 には、これまな。 には、これまな。 には、これまな。 には、これまな。 には、これまな。 には、これまな。 には、これまな。 には、これまな。 には、これまなななな。 には、これまなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	か か か か も は し が た き は し が た は し が た は も は も は も る 。 。 た は も な た は も な た た ま な た た ま え た た ま え た ま え 、 え え た ま え え た ま え 、 え え 、 え え た ま え え た ま え え た ま え え た ま え え た ま え え え え え え え え え え え え え				
事工   事た   事給供そでま   【学と   ・・・     事業食すの慎た   一	業大 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	果点 う頃 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小 校 1 価新源が務   員定委   食 学 生	以度を55	らたきで わ <b>読騰</b> ナ交な期 <b>定</b> 緩続す <b>何</b> の 学 つのにたき たま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的る <b>価</b> で 校 で で 。 りた りた <b>間</b> 続応金。を 事な調 あと あ	サテース とにより を	校給食を持備助金すや、 ・費権助金すやや、 が継続しており、はいてある A は限りがある A は担を増助制度 を発を活活用の制理と配委の と学校 では、感謝した。 といては、感染しみな話に、楽しみな話に、	」のほか、「今まではないでは、一点にないでは、「伊まなないでは、「伊まなないでは、「中まないでは、」」では、「中まないでは、」」」は、「中まないでは、「中まないでは、「中まないでは、「中まないでは、」」は、「中まないでは、」」は、「中まないでは、「中まないでは、」」は、「中はないでは、」」は、「中はないでは、」」は、「中はないでは、」」は、「中はないでは、」」は、「中はないでは、」」は、「中はないでは、」」は、「中はないでは、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、「は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、」は、「は、」は、は、は、は、	一学でする       と         上の金       と         と       と         と       と         と       と         と       と         と       と         と       と         と       と         と       と         を       会         と       表         と       表         ま       会         と       表         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       会         ま       ま         ま       ま         ま       ま         ま       ま         ま       ま         ま       ま	費高騰をや地にる きき での 上 で こう	応事業費補財会を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を担当を	か是性に のする与しが は通る。 A をは、え たたま し じ た。 心した。				
事 また 事 給供そでま 【学と タ子子 給 事	業夫 で点 - の材る時重、 - 政給送 - ど ど 食 業 - の材る時重、 - 政給送 - ど ど 食 業 - でする - できます。	果点 うり 欠 での、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 一個 価新源が務 員定委 食 学 生 や	以度と5	らたきで わ <b>焼騰</b> ナ交な期 <b>定</b> 選続す <b>価</b> の 学 つ 鑑のにたき たま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的る <b>価</b> で 校 で み 一	サテース という はいます はいます ままま はいます はいます はいます はいます はいます	校着負担に 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を 大変を	」のほか、「今まではないである質ではないである質がある質がある。 「関係者・施設管」ではないである質ではないである質ではないである質ではないである質ではないである質がある。	中ですると、 だ等を と が	費や食 価有 Min	応事業費補財 を は は ない	か是性に 見ある。 A をは、え たたま し じ 心 べ い し き。				
事     事     事     を     ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業大 で点 の材る時重、 政給送 ど 食 業 送 方 構 なて 半 送 : 一 政	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 理	以度という 長さ 事権型と必の 判会か記 評べ校活内 一前が新でと にい。 継が回な要委 長つ院 も中一を委	らたきで わ <b>焼騰</b> ナ交な期 <b>定</b> 選続す <b>の</b> 学 つ 鑑 託のにたき たま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的る <b>価</b> で 校 で み に 一般。た。 りた 一世続応金。を 事な調 あと ある は	サテース	校者の単位を ・大きなと ・大きなと ・たなな ・たなと ・たなな ・たなな ・たな ・たなと ・たなな ・たなな ・たなな ・たなな ・たな ・たなな ・たな	」のほか、「今まではないである。では本さいないである。ではないである質にないが、「今後にないのである。」では、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	中ですると、 だ等を と が	費や食 価有 Min	応事業費補財 を は は ない	か是性に 見ある。 A をは、え たたま し じ 心 べ い し き。				
事工事た事件一業食すの慎た一行校配 タ子子給事配の	業夫 で点 の材る時重、 政給送 ど 食業 送 で成た 苦課 、「「青めて料送」 ご 政給送 と ど 食業 送 で し も は のと あ	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小 校 的 理。	以度と5 長さ 事権型と必の判 会か記 評べ校 活内 一く前か新でと にい。 継続百口ると託 員持関 も中 一を委 研	らたきで わ	サナニー サード	校者児童生徒の 大校舎担産性を 大校舎担産性を がは限りがある 大会担産権のである 大きなである 大きなでである 大きながままままな 大きながまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	のほか、「今支援 伊まな 発育を を ない で はい のとな 発育を おい のとな 発育を おい のとな 発育を おい のとな 発育 に おい の 本 い し すい し まで きの かい で い な る 質 すい で い な る 質 すい で い な で い な は ずい で し な い で し な い で し な は ずい で し な は ば い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な な い で し な な い で し な な い で し な は な い で し な い で し な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い な い な い な い な い な い な い な い な	中ですると と が で する か で する で する	費や食 価有 / にる き の e す標ど が活 3 / にる き の e す標ど もをな ぎゅん が	応事業費を指述った。 「応事業会権を につた地消のの につた地消のの につた地消のの につた地消のの につた地消のの では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	か是性に ・				
事工   事た   事給供そでま   【学と   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業夫 で点 - の材る時重、- 政給送 ► どど食業送で校 で 大き課 、 「方費はて料送 ・ 一 政給送 ► どど食業送で校 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 理 。 れ 一	以策を15 長と <b>判集</b> 格型と必の <b>判</b> 会か託 <b>評</b> べ 校 活 内 一 く こ前 新でと にい。 <b>継</b> が a r な 要 委 か 長 下 る ・ の 容 括 研 そ し か 新でと にい。 <b>継</b> が a r な 要 委 で 長 特関 し も 中 一 を 委 究 、	らたきで わ ・	サテース	校者児童生徒の 大校舎担産性を 大校舎担産性を がは限りがある 大会担産権のである 大きなである 大きなでである 大きながままままな 大きながまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	のほか、「今支援 伊まな 発育を を ない で はい のとな 発育を おい のとな 発育を おい のとな 発育を おい のとな 発育 に おい の 本 い し すい し まで きの かい で い な る 質 すい で い な る 質 すい で い な で い な は ずい で し な い で し な い で し な は ずい で し な は ば い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な な い で し な な い で し な な い で し な は な い で し な い で し な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い な い な い な い な い な い な い な い な	中ですると と が で する か で する で する	費や食 価有 / にる き の e す標ど が活 3 / にる き の e す標ど もをな ぎゅん が	応事業費を指するのでは、	か是性に ・				
事工   事た   事給供そでま   【学と   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業夫 で点 の材る時重、 政給送 ど 食業 送 で成た 苦課 、「「青めて料送」 ご 政給送 と ど 食業 送 で し も は のと あ	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 理 。 れ 一	以度と35 長た 半事格型と必の 判 会か記 評 べ校 活内 一 く前 か新でと にい。 継 が 高口な 要 委 か 記 評 る や の 容 括 研 と しい と で 委 会 で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で ま で	らたきで わ	サナニー サード	校者児童生徒の 大校舎担産性を 大校舎担産性を がは限りがある 大会担産権のである 大きなである 大きなでである 大きながままままな 大きながまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	のほか、「今支援 伊まな 発育を を ない で はい のとな 発育を おい のとな 発育を おい のとな 発育を おい のとな 発育 に おい の 本 い し すい し まで きの かい で い な る 質 すい で い な る 質 すい で い な で い な は ずい で し な い で し な い で し な は ずい で し な は ば い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な な い で し な な い で し な な い で し な は な い で し な い で し な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な は な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い で し な い な い な い な い な い な い な い な い な い な	中ですると と が で する か で する で する	費や食 価有 / にる き の e す標ど が活 3 / にる き の e す標ど もをな ぎゅん が	応事業費を指するのでは、	か是性に ・				
事工 事た 事給供そでま 【学と ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業大 の点、 の材る時重、 こ 政給送 ト ど 食 業 送 で 校 ト で は も は の と あ で 長 で は も は の と あ で 長	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 理 。 れ 関 一	以度と5	らたきで わ	サナニー サナニー サナニー サナニー サナニー サーカー	校者児童 は	のほな発育を表して補助ではないできる。 「今後国有 効 性 ないです。 ないではないでする。 ないでするではいかがである。 ないでするでは、対かでは、 ないでするでは、対かでは、 はいのでは、 はいが、 はいでした。	Pでする と と と 制	費や食 価有 くだる き の を す標ど を 意 意 が が 行 更 上 るとも 進 別 が が け た な 達 め が が か が か が か か か か か か か か か か か か か	応事業者を指述った。 「応った地消する必要性 ないがい 本 を しし向 する を を しし向 する の 要 を ししんを を る。 本 は か の ない た の と する か の ない た の と か の ない た の と か の ない た の と が らい た い た ど い っった 。 子 ど いっった 。 子 ど いっった 。 子 ど いっった 。 子 ど いっった 。 子 ど いっこう いった の と か の ない た が い に ど いっこう いった か の ない た が い に ど いっと が い に と か い に と が い に と が い に と が い に と が い に と が い に と が い に と が い に と か い に と い に と か い に と い に と か い に と に と	助是性に				
事工 事た 事給供そでま 【学と ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業夫 で点 - の材る時重、- 政給送 ► どど食業送で校 で 大き課 、 「方費はて料送 ・ 一 政給送 ► どど食業送で校 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 理 。 れ 関 一	以度と5	らたきで わ	サナニー	校者児童 は	のほな発育を表して補助ではないできる。 「今後国有 効 性 ないです。 ないではないでする。 ないでするではいかがである。 ないでするでは、対かでは、 ないでするでは、対かでは、 はいのでは、 はいが、 はいでした。	Pでする と と と 制	費や食 価有 くだる き の を す標ど を 意 意 が が 行 更 上 るとも 進 別 が が け た な 達 め が が か が か が か か か か か か か か か か か か か	応事業 機を指述 ない 本本 情報を指述 ない 本本 情報を指述 ない 本本 情報 を見い かいがい 本本 情報 を見い かい ない はい ない はい とい まま かい の ない たい とい	助是性に				
事工 事た 事給供そでま 【学と ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業夫 の点 - の材る時重、: 政給送 ► どど食業送で校 ► メント が と と と 変 と ま と と ま と と ま と と ま と ま と ま と	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 理 。 れ 関 一	以度と5	らたきで わ	サナニー サナニー サナニー サナニー サナニー サーカー	校者児童 は	のほな発育を表して補助ではないできる。 「今後国有 効 性 ないです。 ないではないでする。 ないでするではいかがである。 ないでするでは、対かでは、 ないでするでは、対かでは、 はいのでは、 はいが、 はいでした。	Pでする と と と 制	費や食 価有 くだる き の を す標ど を 意 意 が が 行 更 上 るとも 進 別 が が け た な 達 め が が か が か が か か か か か か か か か か か か か	応事業 機を指述 ない 本本 情報を指述 ない 本本 情報を指述 ない 本本 情報 を見い かいがい 本本 情報 を見い かい ない はい ない はい とい まま かい の ない たい とい	助是性に				
事工   事た   事給供そでま   【学と   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業大 の点 - の材る時重、 - 政給送 とど食業送で校 トン・ 大 が - で と と と と と を ま と で と ト ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	果点 り頭 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 理 。 れ 間 後 一番	以前を25 長さ 判事格型と必の判 会か託 評べ校活内一くこ 一あ判前がおでと にい 継がコな要委判 委つに 評る・の 容括 研 そ総 振ふりか新でと にい 継高口ると託 員特関 も中一を委 究 、 委れ	らたきで わ ・ 虎騰ナ交な期 ・ 選続す 価の学つ鑑託し食 括るのにたき たま 定とし対付る間定定的る価で校でみに多育括に安断(設)た。 りた 判続応金。を 事な調 あとあるは角に つ全	サナニー	校者児童 は	のほな発育を表して補助ではないできる。 「今後国有 効 性 ないです。 ないではないでする。 ないでするではいかがである。 ないでするでは、対かでは、 ないでするでは、対かでは、 はいのでは、 はいが、 はいでした。	Pでする と と と 制	費や食 価有 くだる き の を す標ど を 意 意 が が 行 更 上 るとも 進 別 が が け た な 達 め が が か が か が か か か か か か か か か か か か か	応事業 機を指述 ない 本本 情報を指述 ない 本本 情報を指述 ない 本本 情報 を見い かいがい 本本 情報 を見い かい ない はい ない はい とい まま かい の ない たい とい	助是性に				
事工   事た   事給供そでま   【学と   ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	業大 の点 - の材る時重、 - 政給送 とど食業送で校 トン・ 大 が - で と と と と と を ま と で と ト ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	果点 り頭 欠 性の、財断業欠 委安間 部 が 小校 的理 。 れ 関 後 性 一番	以前をいる 長と 判事格型と必の判 会か記 評べ校活内一くこ 一ちりにかおでと にい。 継続百口ると託 員持関 も中一を委 究、総委れのの	らたきで わ <b>読</b> 騰ナ交な期 選続す の 学 つ 鑑託 し 食 託る <b>点</b> のにたき たま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的る 価 で 校 で み に 多 育 括 に安 断 を 「設 。た りた 判 続応金 。を 事な調 あ と あ る は 角 に つ全 考	サナニ 会計 という はいている とくりに 大大 の は でん は	校者児童 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	のほかな発育を まいか ない で は できの をな発育を おいか ない す ない	中です       bb         上の       との         との       との </th <th>費や食価有どにるきのをす標とを高量育格効シークをす標とを意合か活シークなげたながまりカークなげたなながまりカークなげたながなまりカーク</th> <th>  応の   応の   応の   応の   にの   にの</th> <th>か是性に ・</th>	費や食価有どにるきのをす標とを高量育格効シークをす標とを意合か活シークなげたながまりカークなげたなながまりカークなげたながなまりカーク	応の   応の   応の   応の   にの   にの	か是性に ・				
事	業大 の点 - の材る時重、 - 政給送 とど食業送で校 トン・ 大 が - で と と と と と を ま と で と ト ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	果点 り頃 欠 性の、財断業 欠 委安間 部 が 小校 的 理 。 れ 関 修 性 国 の 関 の は 等 一 は 国 の は 等 一 は 国 の は 等 一 は 国 の は 等 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 第 一 は 国 の は 国 の は 第 一 は 国 の は 国 の は 第 一 は 国 の は	以前をいる 長と 判事格型と必の判 会か記 評べ校活内一くこ 一ちりにかおでと にい。 継続百口ると託 員持関 も中一を委 究、総委れのの	らたきで わ <b>読</b> 騰ナ交な期 選続す の 学 つ 鑑託 し 食 託る <b>点</b> のにたき たま <b>定と</b> し対付る間 <b>定</b> 定的る 価 で 校 で み に 多 育 括 に安 断 を 「設 。た りた 判 続応金 。を 事な調 あ と あ る は 角 に つ全 考	サナニー	校者児童 は は は は は は は は は は は は は は は は は は は	のほかな発育を まいか ない で は できの をな発育を おいか ない す ない	中です       bb         上の       との         との       との </th <th>費や食価有どにるきのをす標とを高量育格効シークをす標とを意合か活シークなげたながまりカークなげたなながまりカークなげたながなまりカーク</th> <th>  応の   応の   応の   応の   にの   にの</th> <th>か是性に ・</th>	費や食価有どにるきのをす標とを高量育格効シークをす標とを意合か活シークなげたながまりカークなげたなながまりカークなげたながなまりカーク	応の   応の   応の   応の   にの   にの	か是性に ・				

担当部局

子育て支援課

#### No.19

事務事業名 婚活事業

7	1力	ず 木	10	好位于未			7 <u>브</u> =	크마마	1 月 ( 又	C1反IT
4//		÷τ	ida i	健康福祉都市の創	1)造					
総	合	計	画	次代を担う子ども	たちの育成支持	受				
事	業	の対	象	松山圏域3市3町	Jに住民票を有し	、年齢が20	歳以上で概ね	40歳ま	で未婚の男女	
				少子高齢化が進展	マナスカ そのう	こか亜田レキゎ	スキ紙ル・陥	低ルに対	・オスため「」	出合いの
事	業	の目	的	場の創出」から、増加を促す。						
事	業	の 内	容	松山圏域3市3町 場を提供する。	丁に住民票を有っ	トる20歳から	概ね40歳ま	での独身	者に対して、	出会いの
			事	_ 業費及び財源内訳(	千円)		事	業活動の	実績(活動指標	E)
	項		3	R3決算	R4予算	R4決算	項目	単位	R3実績	R4実績
直	接	事 業	費	654	696	648				
	国庫	支出	金	159	164	159	利用者数	人	15	1
財	県	支 出	金	0	0	0				
源内	地	方	債	0	0	0				
訳	そ	の	他	0	0	0				
	_	般 財	源	495	532	489				
職	員の人	エ(にん	く)数	0.10	0.10	0. 10				
1人	、工当たり	の人件	貴単価	7, 841	7, 794	7, 794	:			
*	直接事	業費+人	、件費	1, 438	1, 475	1, 427				
主	な実	施主	. 体	松山市・伊予市・東温i	†・久万高原町・松前	町・砥部町共同実施	Ĩ.			
	形態(補 委託料			委託料						
成	果	指	標	本事業によるカッ	プリング数		-	•		
指	標 設 定	2の考	え方	結婚支援センター ている。	-が実施している	5婚活イベント	実績から、3書	割程度の次	カップル成立数	女を想定し
区	分	年	度	R3年度		R4年度	R5年	度	毎年	度
目			標	6		6	6		6	
実			績	2		5				
自	己	判	定	妥 当 性	A	有 効 性	A		効 率 性	A
	業成果	コロナ	過に伴い	ハネットを活用し	たオンライン型(	のイベントを実	施した。			•
事業た点	の苦労し 気、課題	少子化	対策の	ためウィズコロナ(	こ向けたイベン	ト開催方法を検	討したい。			
_	次	判	定	妥 当 性	A	有 効 性	A		効 率 性	A
		_1		影響により、イベ	ントはリモート		ら見られた。			
	. 次	ניד	足	」以下の点について						
3市3時	政評価委 町が連携 チャット	員会委員して、お	  選定事  3見合い	1	ト等を実施する					

- ・事業の目的に出生数の増加とあるが、そこを目指すのであれば、もっと違う事業を地道に取り組む方がよいだろう。
- ・結婚も子どもを産むことも個人の考え方は様々である。生き方の多様性とのバランスもとりながら推進してもらいたい。
- ・成果指標のカップリング数と出生数の増加は、簡単には結びつかない。事業の目的は見直しが必要に思う。
- ・現代社会では様々な家族の形がある。里親や養子縁組の制度も活用すれば、独自の少子化対策もできるのではないか。
- ・出生数の増加・子育て支援というよりは、定住促進を目的の事業とした方がふさわしいと思う。
- ・参加者の安心感を醸成するために市が関与する必要性はあるが、民間に任せられるものは民間に任せる方がよいだろう。
- ・本事業を子育て支援の一環として実施している点を考え直すと、新機軸が生まれるかもしれない。

# 部 長 等 総 括

地域において男女の出会いを演出する機能が失われつつあるため、公的な部分で支援せざるを得ない。男女 コメント欄 の関係性や価値観が多様化する現代社会において、本事業は検討すべき課題が多く、整理が必要である。

#### 終

#### 事業の方向性下記の点を考慮の上、更に重点化

少子高齢化及び未婚・晩婚化への対策として、松山圏域で連携を強化して推進すること。 コメント欄